

「見方・考え方」を働かせ、社会参画意識を 高める授業の在り方に関する研究

—新科目「公共」における大項目A「公共の扉」の単元構想と教材化の工夫を通して—

《補助資料目次》

| | |
|-------------------------------------|----|
| 【補助資料1】学習指導案及び授業で使用したワークシート及び資料プリント | 1 |
| 【補助資料2】教員用事前アンケートについて | 25 |
| 【補助資料3】公開した授業を参観した教員を対象としたアンケートについて | 34 |
| 【補助資料4】生徒用事前アンケートについて | 39 |
| 【補助資料5】生徒用事後アンケートについて | 40 |

令和2年3月
岩手県立総合教育センター
長期研修生
所属校 岩手県立盛岡第三高等学校
高屋 恵 理

【補助資料 1】 学習指導案及び授業で使用したワークシート及び資料プリント

第 2 学年公民科学習指導案（「公共」）

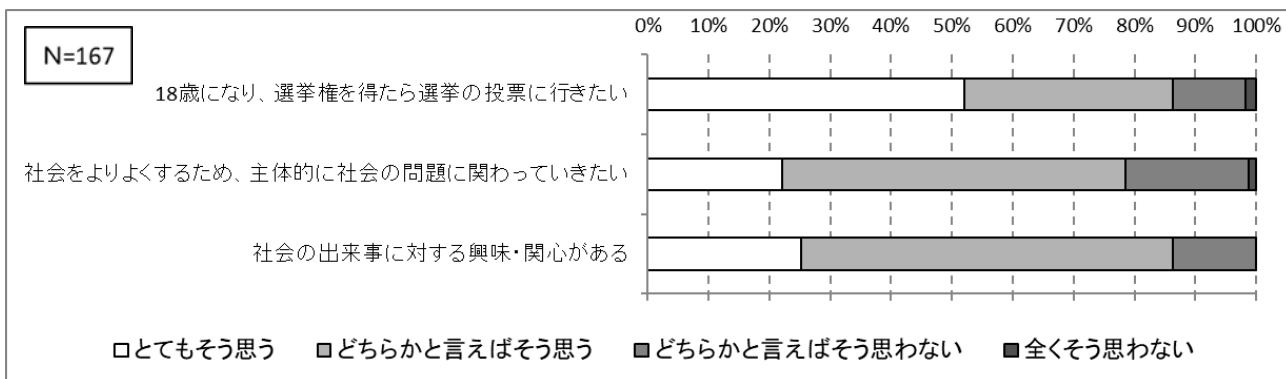
1 単元名

「公共的な空間における基本的原理」（大項目 A 「公共の扉」 / 中項目（3））

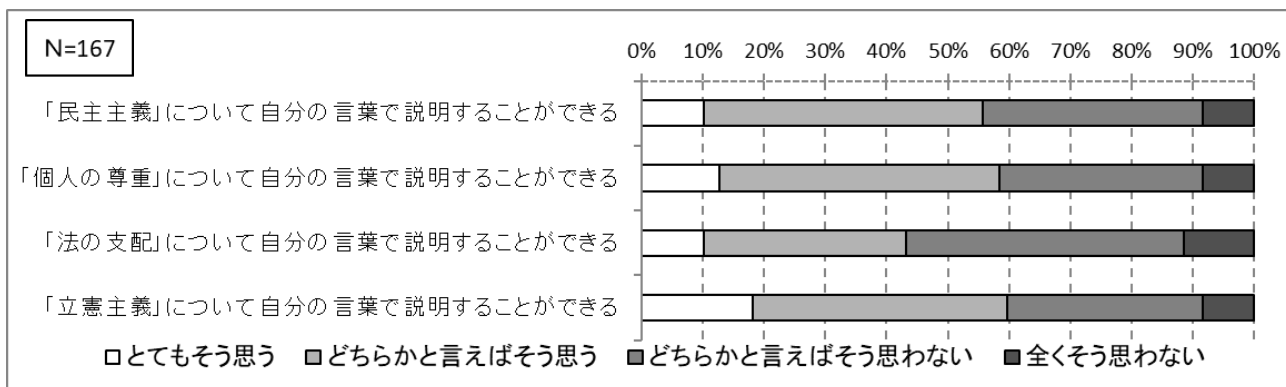
2 単元について

(1) 生徒観

本単元は、中学校の公民的分野における「基本的人権」及び「民主政治の仕組み」の学習を踏まえ、公共的な空間における基本的原理について理解することを主なねらいの一つとしている。そこで、授業実践の対象となる本校理系コース及び理数探究コースの生徒について、社会に関わろうとする意識及び既習事項の理解の実態を把握するため、事前に質問紙調査を行った。



【図 1】 社会に関わろうとする意識について



【図 2】 中学校での既習事項の理解について

【図 1】からは、いずれの質問項目においても 8 割前後の生徒が肯定的な回答をしており、社会の出来事に対する興味・関心や、社会の問題に主体的に関わろうとする意識が高いことが分かる。その一方で、【図 2】からは、いずれの質問項目においても肯定的な回答の割合は 5 割前後に留まり、「民主主義」や「個人の尊重」といった概念の理解に対する自信は十分でないことが分かる。これらのことから、生徒は、社会の出来事や問題に積極的に関わっていくことの重要性を感覚的には理解しているものの、実際に社会に関わる際の選択・判断の手掛かりとなる概念や理論の理解に対する自信や、なぜ一人一人が社会に積極的に関わるのが重要であるかの理解は不十分であることがうかがえる。

また、授業担当者への聞き取りからは、定期考査において、用語の意味や人名の理解を問うような問題の正答率は高く、基礎的・基本的な知識の定着度は非常に高い一方で、基礎的・基本的な知識を暗記することが学習の目的となり、概念等に関する知識の習得まで至らない生徒や、複数の社会的事象を比較したり、諸資料と社会的事象とを関連付けたりして社会的事象の意味や意義を考察する力が十分に育まれていない生徒も少なくないことが分かった。さらに、各教科の授業の中で、ペアやグループで考えを交流し、自分の意見を伝えたり他者の意見を聞いたりする活動を多く経験しており、グループでの活動に意欲的に取り組む傾向がある一方で、議論に際しての視点が焦点化されず、表面的に意見を交わすことに留まっているケースも散見されることが分かった。

(2) 教材観

本単元は、高等学校学習指導要領「公共」の大項目A「公共の扉」の中項目(3)「公共的な空間における基本的原理」に基づいて設定したものである。大項目A「公共の扉」は「公共」の導入として位置付けられており、特に本単元は、大項目B「自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」における(2)「主として政治に関わる事項」の学習の前段階として、具体的には、公共的な空間における基本的原理として、人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務などの内容を扱う。この内容に関して、中学校では、中学校学習指導要領(平成29年3月公示)「社会(公民的分野)」の大項目C「私たちと政治」の中項目(1)「人間の尊重と日本国憲法の基本的原則」及び(2)「民主政治と政治参加」において、対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目し、基本的人権や民主政治の仕組みといった事項について学習している。本単元は、中学校での学習を踏まえて、人間の尊厳と平等、民主主義といった基本的原理についての理解をより深めるとともに、自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体となることに向けて、自己の在り方生き方とそれらの基本的原理との関わりについての理解を深めることを主なねらいとしている。こうしたねらいに基づき、民主主義という基本的原理の学習においては米軍普天間飛行場の移設計画をめぐる辺野古の埋め立てに関わる住民投票及びイギリスのEU離脱に関わる国民投票という社会的事象を、人間の尊厳と平等、個人の尊重という基本的原理の学習においては大学入試におけるアファーマティブ・アクションを、それぞれ取り上げる。

米軍普天間飛行場の移設計画をめぐる辺野古の埋め立てについては、平成31年2月に沖縄県でその是非を問う住民投票が行われ、反対が7割以上となる結果を示した。その一方で、依然として政府は辺野古の埋め立てを進める姿勢を示しており、沖縄県や日本全体における合意形成の難しさが浮き彫りとなっている。イギリスのEU離脱については、平成28年6月にその是非を問う国民投票が行われ、離脱支持が51.89%、残留支持が48.11%という結果を示した。僅差で離脱派が上回り、離脱に向けたイギリスとEUの協議が進められているものの、離脱協定の内容についてイギリス議会の承認を得られず、このままでは「合意なき離脱」をしかねないと危惧する声もある。日本やイギリスをはじめとする近代国家の多くでは代議制民主主義が採用されているが、この間接民主制そのものが適切に機能しているかどうかや、間接民主制を補完する役割としての、国民投票や住民投票を例とした直接民主制の在り方が問われているとも言える。これらの社会的事象を切り口として、民主主義を実現するための望ましい合意形成の在り方とはどのようなものかについて多面的・多角的に考えさせることで、公共的な空間の在り方は、公共的な空間の構成員全員による合理的な議論に開かれている必要があることについて理解を促すことができると考える。

大学入試におけるアファーマティブ・アクションについては、平成23年度に九州大学が次年度

の後期入試において女子学生の入学枠を設置することを公表したところ、男子学生への逆差別ではないか等の批判を受けてその公表を撤回した事例がある。また、国外ではアメリカのテキサス大学の入試において人種的マイノリティを優遇する措置をめぐる裁判が起きている。『人間の尊厳と平等、個人の尊重』については、男女が協働して社会に参画することの重要性についても触れること」が求められているが、なぜ国内外の大学は女子学生や人種的マイノリティの入学枠を設置しているのか、またそれは社会において人間の尊厳と平等や個人の尊重を実現するのかどうかについて考えさせることで、各人がかけがえのない存在として協働して生きる社会を実現することの重要性について理解を促すことができると考える。

その上で、公共的な空間とはどのような空間を意味するのか、また、なぜ公共的な空間の実現には様々な基本的原理が必要とされるのか等について考えさせることを通して、公共的な空間を作る上では、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが必要であることを理解させ、自らもその公共的な空間を構成する一員であることの自覚を深めさせることができると考える。

(3) 指導観

本単元の指導にあたっては、次のア～イの2点に留意しながら学習を進めたい。

ア 米軍普天間飛行場の移設計画をめぐる辺野古の埋め立て及びイギリスのEU離脱や、大学入試における女性枠の設定といった、社会的事象を教材化することで、人間の尊厳と平等や個人の尊重、民主主義といった公共的な空間における基本的原理を自分や社会と関係の薄いものとしてとらえるのではなく、自分事としてとらえさせる。その上で、抽象的な概念と具体的な事例との間を往還して考える活動に主体的に取り組ませたい。

イ 高等学校学習指導要領解説公民編（平成30年7月）に「各人の意見や利害の対立を捉え、それを公平・公正に調整するための基本的原理を考察し、表現できる適切な問い」を設けるように示されていることを踏まえ、「公共的な空間を実現するための条件とは何か」という単元の学習課題の追究・解決に主体的に取り組む姿勢を引き出すために、各単位時間で設定する学習課題そのものを工夫する。具体的には、第1時では、「なぜ型」の課題を追究することで協働的な関係が妨げられる原因について考察させ、単元の学習課題の設定につなげる。それを踏まえ、第2時・第3時では「どのように（な）型」の課題を追究し、第4時では単元の学習課題に対するまとめを行う*。

(4) 研究との関わり

ア 「見方・考え方」を働かせるための手立て

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（2016）に、「社会的な見方・考え方」は社会的な事象等について理解し、考察・構想する際の「視点や方法」であると示されていることを踏まえ、本実践においては「見方・考え方」を働かせるために以下のような手立てをとる。

(ア) 課題把握の場面で、身近な事例の共有や社会的な事象の提示を踏まえて学習課題を設定することで、課題追究の意欲を喚起し、単元や各単位時間の授業において生徒に何の「視点」に着

* 澤井陽介は、『澤井陽介の社会科の授業デザイン』（2016）東洋館出版社、pp.110-117の中で、「どのように（な）～だろう」という「どのように（な）型」の学習課題によって、子どもたちに社会的な事象についての知見を得させ、「なぜ～なのだろう」という「なぜ型」の学習課題によって、事実をもとに社会的な事象の意味について考えさせることができると述べ、これらの学習課題を単元全体で構造的に設定することの重要性を述べた。

目して社会的事象を捉えたり，考察したりするべきであるかについて理解させる。（手立て1）

(イ) 課題把握や課題追究の場面で，資料と資料の比較や関連付け，事例の一般化といった「方法」により，必要な情報を読み取ったり思考を深めたりする活動を設定する。（手立て2）

(ウ) 課題追究の後半から課題解決に至る場面で，選択・判断や考察・構想といった「方法」により，社会の在り方について多面的・多角的に考える活動を設定する。（手立て3）

イ 社会参画意識を高めるための手立て

社会参画意識について，本研究では，「社会的事象に対する興味・関心を持ち，選択・判断の手掛かりとなる概念や理論，公共的な空間における基本的原理の適切な理解のもとに，他者と関わり合いながらよりよい社会を形成しようとする意識」と定義している。この定義を踏まえ，本実践では社会参画意識の高まりを促すために以下のような手立てをとる。

(ア) 単元や各単位時間の授業において適切な社会的事象を選定して提示し，生徒の社会そのものへの興味・関心を高める。（手立て4）

(イ) よりよい社会の在り方について選択・判断や考察・構想した内容について他者と意見を交流する活動を設定し，他者と関わり合いながら社会を形成する意義について理解させる。（手立て5）

3 単元の目標及び評価規準

(1) 目標

| 知識及び技能 | 思考力，判断力，表現力等 | 学びに向かう力，人間性等 |
|--|--|---|
| <p>(ア) 各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して，人間の尊厳と平等，協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが，公共的な空間を作る上で必要であることについて理解すること。</p> <p>(イ) 人間の尊厳と平等，個人の尊重，民主主義，法の支配，自由・権利と責任・義務など，公共的な空間における基本的原理について理解すること。</p> | <p>(ア) 公共的な空間における基本的原理について，思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して，個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し，表現すること。</p> | <ul style="list-style-type: none"> よりよい社会の実現を視野に，自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体となることに向けて，現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うこと。 |

(2) 評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して，人間の尊厳と平等，協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが，公共的な空間を作る上で必要であることについて理解している。 人間の尊厳と平等，個人の尊重，民主主義，法の支配，自由・権利と責任・義務など，公共的な空間における基本的原理について理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> 公共的な空間における基本的原理について，思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して，個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し，表現している。 | <ul style="list-style-type: none"> よりよい社会の実現を視野に，自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体となることに向けて，現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 |

4 単元の指導計画（全4時間）

| 時 | 学習過程 | 主な学習活動 | 「見方・考え方」の一例 | |
|---|------------------|--|--|--|
| | | | 視点 | 方法 |
| 1 | 課題把握（動機付け／方向付け） | <ul style="list-style-type: none"> 他者と対立した事例について考える。 なぜ、私たちは必ずしも協働することができないのか。 「囚人のジレンマ」と「男女の争い」の思考実験に取り組む。 利害対立を背景とする合意形成の困難さ等から、協働関係が妨げられることを理解する。 単元の学習課題を設定する。 <p>よりよい公共的な空間を実現するための条件とは何か。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 協働の利益 自由・権利と責任・義務 | 利害が対立する構造の比較 |
| 2 | 課題追究（情報収集／考察・構想） | <ul style="list-style-type: none"> 普天間飛行場移設をめぐる辺野古埋め立てに関わる住民投票や英国のEU離脱に関わる国民投票をもとに、学習課題を設定する。 「民主主義」を実現する合意形成の在り方はどのようなものか。 社会契約説の思想について学習する。 辺野古埋め立ての住民投票や英国でのEU離脱の国民投票の事例をもとに、望ましい合意形成の在り方について考える。 グループや全体での意見交流を踏まえ、多数決や代議制が最善とは限らず、熟議や他者の意見に耳を傾けることが民主主義を支える望ましい合意形成の前提であることを理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> 民主主義 法の支配 | 直接民主制と間接民主制の比較 合意形成の在り方の選択・判断及び考察・構想 |
| 3 | 課題追究（情報収集／考察・構想） | <ul style="list-style-type: none"> 大学入試での女性枠の設定が男子への逆差別ではないかとの批判を受けて撤回された事例から、学習課題を設定する。 「個人の尊重」を実現するためにはどのような「平等」の在り方が必要か。 日本で理系学部に進学する女子学生が少ない理由を考える。 ジョンソン政権下のアフターマティブ・アクションに関わる大統領令をもとに、平等の在り方について考察する。 各人が尊厳をもつかけがえのない人格として平等に配慮され、性別などにより差別されることなく、皆が協働して生きることができる社会の実現が大切であることを理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> 人間の尊厳と平等 個人の尊重 | 男女の学力差の比較 事例の一般化 アフターマティブ・アクションの在り方の選択・判断及び考察・構想 |
| 4 | 課題解決（まとめ／振り返り） | <p>よりよい公共的な空間を実現するための条件とは何か。</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時までの学習を踏まえ、身近な社会（家族、クラス、所属する部等）を取り上げ、その社会が「公共的な空間」と言えるかどうか、また、その社会をよりよい公共的な空間とするためには何が必要かについて考察する。 グループ・全体での交流を踏まえて相互に評価を行う。 単元の振り返りを行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 人間の尊厳と平等 個人の尊重 民主主義 法の支配 自由・権利と責任・義務 | 公共的な空間を実現する条件についての考察・構想 |

5 各単位時間の指導

第1時

(1) 目標

「囚人のジレンマ」と「男女の争い」という思考実験を通し、人々の協働関係を妨げる原因とその原因を取り除くためには何が必要かについて考える。その上で、公共的な空間を実現するためには、各人の意見や利害の対立を公正・公平に調整するための基本的原理が必要となることを理解する。

(2) 評価規準

- ・公共的な空間を実現するための条件について主体的に考察・構想しようとする。【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 指導構想

導入では他者と対立した事例がないか、対立した原因は何であったかについて考え、「なぜ、私たちは必ずしも協働することができないのか」という本時の学習課題を設定する。

展開では、「囚人のジレンマ」に関わる問題（問題1）、「男女の争い」に関わる問題（問題2）を解く。その上で、問題1と問題2では、対立構造が異なることに着目させる。問題1では、望ましい行動をわかっていながら、他者に裏切られることへの恐れや、自分だけが損をすることを避けようとする心理から、結果的に両者にとってマイナスとなる行動をとってしまう人々の姿が構造化されていることに気付かせる。その上で、駅前の違法駐輪や二酸化炭素の排出による環境破壊等も同じ構造であることや、問題1における対立の解決には、構成員間で信頼関係を構築することや、望ましい行動をとるように罰やインセンティブを設けることが必要となることを理解する。一方、問題2では、両者が選ぶ選択肢が一致していれば選ぶ選択肢はどちらでもよいものの、互いの利害対立から意見を一致させることが困難となっている状態が構造化されていることに気付かせる。その上で、税金の使途や、ある政策の実行の是非等も同じ構造であることや、問題2の対立の解決には、意見の調整や合意形成が必要となることを理解する。以上を踏まえ、他者と関わり合って生きていく上では、協働することによって互いにとっての協働の利益が確保されることを理解し、その実現に向けた努力が必要であることを確認する。その際、人が自分以外の他者と関わりをもつ状態を「公共的な空間」と定義し、「よりよい公共的な空間を実現するための条件とは何か」という単元の学習課題を設定する。

終末では、単元の学習課題に対する予想を記入し、全体での交流を踏まえ、次時以降で公共的な空間を実現するための条件について具体的に学習することを確認する。

(4) 展開

| 段階 | 学習活動・内容 | 指導上の留意点 (◇評価) | 留意点 (資料等) |
|-----------|--|---|---|
| 導入 5分 | 1. 他者と意見が対立した経験や事例はないかについて考える。 2. 学習課題を確認する。 | ・身近な事例から、より主体的に学習に向かうことができるようにする。 | ・ワークシート |
| 展開 35分 | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;"> 学習課題 なぜ、私たちは必ずしも協働することができないのか。 </div> 3. 「囚人のジレンマ」と「男女の争い」という思考実験において、自分であればどのような行動をとるかとその理由を考え、ワークシートに記入する。 4. 記入した内容をペア・全体で交流する。 5. 「囚人のジレンマ」と「男女の争い」における対立構造の違いを理解し、それぞれの解決方法を考えワークシートに記入する。 6. 記入した内容をペア・全体で交流する。 7. 他者と関わり合って生きていく上では、協働の利益の確保が重要であることを踏まえ、その実現にはどのような条件が必要となるか考え、単元の学習課題を設定する。 | ・「囚人のジレンマ」では、望ましい行動がわかっているながらも自分だけが損をすることへの抵抗感等から、「男女の争い」では互いの利害対立による意見の相違から、協働関係が妨げられることに気付かせたい。 ・「囚人のジレンマ」では望ましい行動への報酬や望ましくない行動への制裁、「男女の争い」では互いを尊重する姿勢や議論等を通じた合意形成が、協働関係を構築する方法となることに気付かせたい。 | ・ワークシート ・資料プリント ・ワークシート ・資料プリント ・ワークシート |
| 終末 10分 | 8. 単元の学習課題への予想を記入する。 9. 予想を全体で交流し、次時以降で公共的な空間を実現するための条件について具体的に学習することを確認する。 | ◇公共的な空間を実現するための条件について主体的に考察・構想しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】 | ・ワークシート |

(5) ワークシート, 生徒のワークシート記述例及び資料プリント

「現代社会」ワークシート①

8月20日(火)実施

2年 組 番 氏名 _____

本時のテーマ

1. 問題1と問題2の対立構造の違いを踏まえ、その解決に必要なことは何かを考えよう。

| | |
|--------------|--------|
| 問題1の解決に必要なこと | 他の人の意見 |
| 問題2の解決に必要なこと | 他の人の意見 |

単元のテーマ

2. 単元のテーマに対する予想を記入しよう。

本時のテーマ

協力して、協調的な関係を築くこと
 なぜ、私たちは必ずしも協働することができないのか。

1. 問題1と問題2の対立構造の違いを踏まえ、その解決に必要なことは何かを考えよう。

| | |
|---|--|
| 問題1の解決に必要なこと 「囚人のジレンマ」型 ・信頼関係がある ・決めた約束は必ず守る ・自分のリスクだけでなく全体を考える | 他人の意見 ・事前に決めておく ・お互いのことを考える |
| 問題2の解決に必要なこと 「男女の争い」型 ・自分の利害を一番に考えるのではなく、対立しないことを優先に考える ・相手の意見を尊重する | 他人の意見 ・事前に相談して決める ・共通点を探る ・第3の選択肢 |

単元のテーマ

人間と人間の間接が発生している状態 (国家、社会、地域、家族...)
 および 公共的な空間 を実現するための条件とは何か

2. 単元のテーマに対する予想を記入しよう。

- 互いの信頼関係が強い
_→ 日常的に相手に裏切るような行動をしない
 例) 約束は必ず守る
- 自分の利害 < 全体の利害 という思考にする
_→ 自己中心×、我慢も必要、互いのことを考える 思いやり
- ルールを作る (法)
- 他人のことをも考えたい行動
- 多くの人の意見を聞く
- 第三者の介入 (仲介者) ... (司法)
- 全体の利益 ... (公共の福祉)
- (個人の尊重)
- (民主主義)

資料プリント①

- 問題1 人物Aと人物Bは共謀してある罪を犯し、逮捕されて警察による取り調べを受けている。黙秘を続ける二人に対し、警察は次のような提案をした。
- このまま両者とも黙秘を続けた場合、二人とも懲役3年となること。
 - もしもう一人が黙秘を続ける状態で、今日中に自分が自白し、もう一人の犯行についても証言をすれば自分は懲役1年で済むこと。
 - もしもう一人が今日中に自白し、自分が黙秘を続けたら自分は懲役10年となること。
 - 両者とも今日中に自白した場合は二人とも懲役5年となること。

| | | 人物B | |
|-----|----|-----------|-----------|
| | | 黙秘 | 自白 |
| 人物A | 黙秘 | 人物A：懲役3年 | 人物A：懲役10年 |
| | | 人物B：懲役3年 | 人物B：懲役1年 |
| | 自白 | 人物A：懲役1年 | 人物A：懲役5年 |
| | | 人物B：懲役10年 | 人物B：懲役5年 |

自分が人物Aの立場だった場合、「黙秘」と「自白」のいずれの行動をとるだろうか。なお、二人の取り調べは別々に行われ、それ以外はそれぞれ独房に入れられているため、互いに連絡をとることができない状態にあるとする。

| | |
|--------------|----|
| 解答（黙秘 or 自白） | 理由 |
| 対立構造 | |

- 問題2 A君とBさんは恋人同士であり、デートに行く約束をした。デートの当日、ランチにA君は焼き肉、Bさんは寿司を食べたいと考えているが、お互いに相手の希望するものはそれほど食べたくない。ただし、恋人である以上、一緒にランチを食べることができなくなるのは最も避けたい選択肢である。自分がA君又はBさんの立場だった場合、表中の選択肢①～④のいずれとなることを望むだろうか。

| | | Bさん | |
|----|-----|---------|---------|
| | | 焼き肉 | 寿司 |
| A君 | 焼き肉 | A君に5点 ① | A君に0点 ② |
| | | Bさんに1点 | Bさんに0点 |
| | 寿司 | A君に0点 ③ | A君に1点 ④ |
| | | Bさんに0点 | Bさんに5点 |

| | |
|------|----|
| 解答 | 理由 |
| 対立構造 | |

※問題1・2は、授業者作成（参考：黒崎洋介（2019），「新科目『公共』の授業を見据えた『学びの宛先』としての宿題・課題」，『社会科教育』723号，pp.86-89，明治図書出版）

第2時

(1) 目標

望ましい合意形成の在り方を考えることを通し、公共的な空間を作る全ての者による合理的な議論に開かれていることが民主主義という基本的原理を支えていることや、自分自身が公共的な空間の一員として主体的に議論に関わっていくことの重要性を理解する。

(2) 評価規準

- ・民主主義という公共的な空間における基本的原理について、理解を深める。【知識・技能】
- ・合意形成の在り方について考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現する。【思考・判断・表現】

(3) 指導構想

導入では、米軍普天間飛行場の移設計画をめぐる辺野古の埋め立てについての住民投票の事例と、イギリスの欧州連合（EU）離脱を巡る国民投票の事例から、合意形成の難しさについて述べた新聞記事を読む。その上で、「民主主義」とは「自分たちのことは自分たちで決めること」であることを確認し、「民主主義を実現する合意形成の在り方はどのようなものか」という本時の学習課題を設定する。

展開では、民主主義のもととなる理念を作った社会契約説の考え方について教員の説明をもとに理解する。その上で、「現在、実際に多くの国で採用されている政治のシステムは誰の思想に基づいているか」と問いかけ、近代国家の多くは、ロックの支持した間接民主制の考え方に基づき、国民の選んだ代表者が議会で様々な決定を行う議会制民主主義が採用されていることや、その一方で、ルソーの支持した直接民主制の考え方も日本では憲法改正の国民投票等、一部に採用されていることに気付かせる。次に、合意形成の在り方について、資料1（直接民主制の意義について述べた新聞記事）と資料2（間接民主制の意義について述べた新聞記事）を比較し、民主主義を実現するための合意形成の在り方として、どちらの資料の主張に賛成するかを考え、ワークシートに自分の考えを記入する。ペア及び全体で意見を交流した後、資料3（古代ギリシャの民主政について述べた新聞記事）を読み、単なる多数決や代議制が民主主義を実現するとは限らず、熟議や少数派の意見に耳を傾けることも重要であることに気付かせる。また、ナチスが政権を握った際には当時定められていた合法的な手順を踏んでいた事例をもとに、民主主義の暴走を止める仕組みとして、法の支配という考え方があることを理解する。

終末では本時の学習課題に対するまとめを行う。

(4) 目標

| 段階 | 学習活動・内容 | 指導上の留意点 (◇評価) | 留意点 (資料等) |
|--|--|---|---|
| 導入 15分 | 1. 米軍普天間飛行場の移設計画をめぐる辺野古の埋め立てについての住民投票とイギリスのEU離脱をめぐる国民投票を切り口として、学習課題を確認する。 | ・米軍普天間飛行場の移設をめぐる辺野古の埋め立て及びイギリスのEU離脱について簡潔に示し、社会的事象をもとに、より主体的に学習に向かうことができるようにする。 | ・ワークシート |
| <p>学習課題 民主主義を実現する合意形成の在り方はどのようなものか。</p> | | | |
| 展開 25分 | 2. 社会契約説 (ホブズ・ロック・ルソー) の思想について教員の説明を聞き、理解する。 3. 資料1 (直接民主制の意義について述べた記事)・資料2 (間接民主制の意義について述べた記事) を読み、どちらの主張に賛成するか考え、ワークシートに記入する。 4. ワークシートに記入した内容についてペア・全体で交流を行う。 5. 資料3 (古代ギリシャの民主政について述べた新聞記事) から、多数決に依存しない議論の重要性について理解する。 6. ヒトラーによる全権委任法の制定は民主主義の中で生まれたという指摘から、法の支配の意義について理解する。 | ・社会契約説の思想が民主主義の土台となっていることを理解させたい。 ・根拠を挙げて記入するように指示する。 ・法の支配やそれに基づく立憲主義が民主主義を支えていることを理解させたい。 | ・ワークシート ・ワークシート ・資料① ・ワークシート ・資料② |
| 終末 10分 | 7. グループ及び全体の交流を踏まえ、学習課題に対する自分の考えをまとめる。 | ◇合意形成の在り方について、間接民主制や直接民主制の意義を踏まえ、多種多様な人々の意見を開かれた議論によってまとめていくことの重要性を理解して記述している。【知識・技能】【思考・判断・表現】 | ・ワークシート |
| <p>〈まとめの記述例〉 自分達のことを自分達で決めようとするのが「民主主義」である以上、その決め方は吟味が必要である。民主主義の実現を考えた際、間接民主制にも直接民主制にもメリット・デメリットがあることから、多数決や代議制が必ずしも民主主義を実現する最善の方法とは限らないことや、両者を併用する等によって、より民主主義に近い合意形成の在り方を追求し続けていくことが必要である。</p> | | | |

(5) ワークシート、生徒のワークシート記述例及び資料プリント

「現代社会」ワークシート②
8月21日(水)実施

2年 組 番 氏名

朝田新太郎 (1997年11月15日生)

※著作権の関係上、省略しています。

本時のテーマ

1. 「民主主義」とはどのような意味か。

2. 「民主主義」のもとになる理念を作ったのはどのような考えか。

| | | | |
|----------|---------------|-----------------------------------|-------------------------------------|
| 思想家 | () 英 | () 英 | () 仏 |
| 著作 | 『リヴァイアサン』 | 『統治二論』 | 『社会契約論』 |
| 自然状態 | () | 自由で平等。 | 本来自由・平等だが、私有財産によってそうではなくなっている ⇒ () |
| 社会契約 | 自然権を国家に () | 自然権の一部を国家に ()。国家がこれに背いたら () を行使 | 自然権を共同体に () し、() による統治を行う。 |
| 支持する政治体制 | 結果的には、() を擁護 | ・() を支持 ・アメリカ独立革命に影響 | ・() を支持 ・フランス革命に影響 |

⇒ 説 から 説 へ

3. 資料1・2を読み、「民主主義」を実現するための合憲形成の在り方について、資料1・2のどちらの主張に賛成するか選び、その理由を記入しよう。

| | | | |
|-----------|-----|-----|---------|
| 自分が賛成する主張 | 資料1 | 資料2 | どちらでもない |
| 理由 | | | |
| メモ | | | |

4. 「3」の意見をもとにグループで交流しよう。

5. 以下のような事例を防ぐための仕組みとして、現代にはどのようなものがあるだろうか。

| | |
|------------------|-------------|
| ① ナチスが政権を握るまで | ② 憲法改正のようす |
| 1917 ドイツ内閣の総辞職 | 1946 ナチ憲法改正 |
| 1918 ドイツ社会民主党の勝利 | 1948 ナチ憲法改正 |
| 1919 魏マール憲法 | 1949 基本法 |
| 1920 共和政 | 1950 基本法 |
| 1921 ナチス国会党 | 1951 基本法 |
| 1922 共和政 | 1952 基本法 |
| 1923 ナチス国会党 | 1953 基本法 |
| 1924 共和政 | 1954 基本法 |
| 1925 ナチス国会党 | 1955 基本法 |
| 1926 共和政 | 1956 基本法 |
| 1927 ナチス国会党 | 1957 基本法 |
| 1928 共和政 | 1958 基本法 |
| 1929 ナチス国会党 | 1959 基本法 |
| 1930 共和政 | 1960 基本法 |
| 1931 ナチス国会党 | 1961 基本法 |
| 1932 共和政 | 1962 基本法 |
| 1933 ナチス国会党 | 1963 基本法 |
| 1934 共和政 | 1964 基本法 |

「ナチスは民主政治から生まれた」

ヒトラーは武力を背景に力づくで権力を奪ったわけではない。当時最も民主的と言われたワイマール憲法の下、ナチスは民衆の心をつかみ、議席を拡大、すなわち、合法的な手段で政権を獲得したのだ。

「テーマ別資料 政治・経済 2019」
東京法令出版株式会社

6. 今日の授業を踏まえ、本時のテーマに対する自分の考えをまとめよう。

「現代社会」ワークシート②
8月21日(水)実施

2年

朝田新太郎 (1997年11月15日生)

※著作権の関係上、省略しています。

本時のテーマ

「民主主義」を実現する合憲形成の在り方はどのようなものか。

1. 「民主主義」とはどのような意味か。

自分のことは自分で決めること。
議決案の総意で物事を決めること。

2. 「民主主義」のもとになる理念を作ったのはどのような考えか。

| | | | |
|----------|------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 思想家 | () 英 | () 英 | () 仏 |
| 著作 | 『リヴァイアサン』 | 『統治二論』 | 『社会契約論』 |
| 自然状態 | 万人の万人に対する闘争状態 | 自由で平等。 (理性があるから、自然状態) | 本来自由・平等だが、私有財産によってそうではなくなっている ⇒ () |
| 社会契約 | 自然権を国家に (譲渡) | 自然権の一部を国家に (信託)。国家がこれに背いたら (信任) を行使 | 自然権を共同体に (譲渡) し、(信託) による統治を行う。 |
| 支持する政治体制 | 結果的には、(絶対王政) を擁護 | ・(開明君主制) を支持 ・アメリカ独立革命に影響 | ・(直接民主制) を支持 ・フランス革命に影響 |

⇒ 王権神授説 から 社会契約説 へ

3. 資料1・2を読み、「民主主義」を実現するための合憲形成の在り方について、資料1・2のどちらの主張に賛成するか選び、その理由を記入しよう。

| | | | |
|-----------|--|-----|---------|
| 自分が賛成する主張 | 資料1 | 資料2 | どちらでもない |
| 理由 | 資料2。「主権者に十分な情報が与えられておらず、判断が的確にできないかもしれない」という意見も分かるが、実際決めた制度審の下ではそれは国民自身の手で、その手元には決定権がある。直接民主主義を尊重するべきだと思う。 | | |
| メモ | 直接民主のリスク：正しい情報も間違った情報も混在しているため、専門家でない国民自ら投票するのは危険 | | |

4. 「3」の意見をもとにグループで交流しよう。

5. 以下のような事例を防ぐための仕組みとして、現代にはどのようなものがあるだろうか。

| | |
|------------------|-------------|
| ① ナチスが政権を握るまで | ② 憲法改正のようす |
| 1917 ドイツ内閣の総辞職 | 1946 ナチ憲法改正 |
| 1918 ドイツ社会民主党の勝利 | 1948 ナチ憲法改正 |
| 1919 魏マール憲法 | 1949 基本法 |
| 1920 共和政 | 1950 基本法 |
| 1921 ナチス国会党 | 1951 基本法 |
| 1922 共和政 | 1952 基本法 |
| 1923 ナチス国会党 | 1953 基本法 |
| 1924 共和政 | 1954 基本法 |
| 1925 ナチス国会党 | 1955 基本法 |
| 1926 共和政 | 1956 基本法 |
| 1927 ナチス国会党 | 1957 基本法 |
| 1928 共和政 | 1958 基本法 |
| 1929 ナチス国会党 | 1959 基本法 |
| 1930 共和政 | 1960 基本法 |
| 1931 ナチス国会党 | 1961 基本法 |
| 1932 共和政 | 1962 基本法 |
| 1933 ナチス国会党 | 1963 基本法 |
| 1934 共和政 | 1964 基本法 |

「ナチスは民主政治から生まれた」

ヒトラーは武力を背景に力づくで権力を奪ったわけではない。当時最も民主的と言われたワイマール憲法の下、ナチスは民衆の心をつかみ、議席を拡大、すなわち、合法的な手段で政権を獲得したのだ。

憲法等の改訂により、最低限守るべき基準を押し、様々な約束や保証が、「法の支配」「民主配」

「テーマ別資料 政治・経済 2019」
東京法令出版株式会社

6. 今日の授業を踏まえ、本時のテーマに対する自分の考えをまとめよう。

「直接民主主義」にして、「間接民主主義」にして、排外的リスクがとて大それたものもそのリスクは互いのメリットを補完するものがほとんどだと感じる。だから私は、「直接民主主義」と「間接民主主義」が1つの国家に併存していても良いのではないかと感じる。少し難しいかもしれないけれど、2つの民主主義を時と場合によって使い分ければ、より良い国になると思う。

資料プリント①

【資料1】

※著作権の関係上,省略しています。

出典：朝日新聞（2019年2月26日）

【資料2】

※著作権の関係上,省略しています。

出典：読売新聞（2016年6月26日）

資料プリント②

【資料3】

※著作権の関係上,省略しています。

出典：朝日新聞（2019年7月22日）

第3時

(1) 目標

大学入試において女性枠を設定することの適否について考えることを通し、公共的な空間の基礎には、各人が尊厳をもつかけがえのない人格として、差別されることなく全ての人が協働して生きることができるよう、人間の尊厳と平等及び個人の尊重という基本的原理が不可欠であることを理解する。

(2) 評価規準

- ・人間の尊厳と平等及び個人の尊重という公共的な空間における基本的原理について、理解する。

【知識・技能】

- ・人間の尊厳と平等及び個人の尊重について、社会における構造的な差別を改善する方法としての、アファーマティブ・アクションの適否について考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現する。【思考・判断・表現】

(3) 指導構想

導入では、九州大学が平成24年度の入試に「女性枠」を設定しようとした事例についての新聞記事を読む。機会の平等ではなく結果の平等に目を向け、性別に左右されることなく多様な人材が入学できる環境を整えることこそが「個人の尊重」につながるという考え方に対して、「女性枠」の設定は「男性への差別だ」との批判の声が多く寄せられたことから、「『個人の尊重』を実現するためにはどのような『平等』の在り方が必要か」という本時の学習課題を設定する。

展開では、なぜ日本の理系の学部における女子学生の割合が少ないのかについて、資料1（PISAの数学的リテラシーを問う問題における男女の平均点の差の国際比較）及び資料2（ジェンダー・ギャップ指数の国際比較）をもとに考える。その上で、資料3（男女の学力差は環境要因が影響していることを述べた新聞記事）をもとに、日本では「女子は理系に向かない」とする思い込みや、理系分野で活躍する女性のロールモデルの少なさ等により、理系の学部へ進学するという選択肢を選びにくかったり、理系を志すにあたって周囲からのサポートを受けにくかったりすることを理解する。こうした社会環境や歴史的差別等によって生じる現在の格差を改善するものとしてアファーマティブ・アクションが存在することや、アファーマティブ・アクションの国内外の事例について、教員の説明をもとに理解する。次に、ジョンソン政権下で出された大統領令における、アファーマティブ・アクションについての一節をもとに、目には見えにくい「足かせ」を外すことや、社会的弱者とそうでない者との間に、「足かせ」を外しても依然として生じている「ギャップ」を埋め合わせることはどのようなことであるのかについて考える。

その上で、理系学部における女子学生や女性研究者の割合が低いことについて、性別に左右されることなく「個人の尊重」を実現するために、「平等」を保障する方法について、四つの選択肢から最も適していると考えられるものを一つ選び、その理由をワークシートに記入する。グループ及び全体で交流を行い、「個人の尊重」及び「平等」の意味について深める。その際、あらゆる人が性別や障害の有無といった差別を受けずにあらゆる分野で活躍し得る社会の実現が「個人の尊重」につながることや、そのためには表面的な平等ではなく、質的にも平等が保障されるための仕組みが必要であることに気付かせる。

終末では本時の学習課題に対するまとめを行う。

(4) 展開

| 段階 | 学習活動・内容 | 指導上の留意点 (◇評価) | 留意点 (資料等) |
|--|--|---|---|
| 導入 5分 | 1. 九州大学が入試に女性枠を設定しようとしたものの、批判を受けて撤回したことを示す新聞記事から、学習課題を確認する。 2. 大学側の意図を理解する。 | ・大学入試におけるアファーマティブ・アクションの事例を示し、より主体的に学習に向かうことができるようにする。 | ・ワークシート |
| 展開 35分 | 学習課題 「個人の尊重」を実現するためにはどのような「平等」の在り方が必要か。 | | |
| | 3. なぜ理系の学部に進学する女性が少ないのかについて、資料プリント①の資料1及び資料2をもとに個人・ペアで考える。 4. 資料プリント②の資料3 (男女の学力差は環境要因が影響していることを述べた新聞記事)をもとに、学力は性別に左右されないという主張を確認する。 5. 教員の説明から、アファーマティブ・アクションの定義を理解する。 6. ジョンソン政権下のアファーマティブ・アクションに関わる大統領令から、平等の在り方について考察する。 7. 性別に左右されることなく「個人の尊重」を実現するために、「平等」を保障する方法として適切なものを、選択肢ア～エから一つ選び、理由をワークシートに記入する。 8. 選んだ選択肢とその理由について意見を4人グループ及び全体で交流する。 | ・資料1 (PISAの数学的リテラシーを問う問題における男女の平均点の差の国際比較), 資料2 (ジェンダー・ギャップ指数の国際比較)を提示し、男女の学力差が環境に左右され得ることに気付かせる。 ・アメリカの大学入試における留学生枠や、フランスの国政選挙におけるパリテ法等を紹介する。 ・適切だと考える選択肢を根拠に基づいて選ばせる。 | ・ワークシート ・資料① ・資料② ・ワークシート ・ワークシート ・ワークシート ・ワークシート |
| 終末 10分 | 9. 4人グループ及び全体の交流を踏まえ、学習課題に対する自分の考えをまとめる。 | ◇社会に存在する構造的な差別を解消するためにはどのようなことが必要であるかについて、互いを尊重することの重要性を踏まえてまとめている。【知識・技能】【思考・判断・表現】 | ・ワークシート |
| 〈まとめの記述例〉 あらゆる人が性別や障害の有無といった差別を受けず、個人が尊重される社会の実現には、不平等を生む背景に目を向け、その改善を目指すことが必要である。その際、単なる表面的な平等ではなく、質的な平等が保障されることが必要であるが、それが逆差別となり、他の立場にある個人の尊重が妨げられるようなことがあってはならない。両者のバランスをとることができるような平等の在り方を探ることが必要である。 | | | |

(5) ワークシート、生徒のワークシート記述例及び資料プリント

「現代社会」ワークシート③
8月22日(木)実施

2年組 番氏名

※著作権の関係上、省略しています。

出典：朝日新聞（平成23年5月18日）

本時のテーマ

▼ とは？

社会環境や歴史的差別による現在の格差を改善するため、社会的弱者やマイノリティを優遇する措置。積極的差別是正措置、ポジティブ・アクションとも。
※マイノリティ…社会的少数派のこと。

1. 次の文章における下線部が意味するのは具体的にどのようなことだろうか。

※著作権の関係上、省略しています。

出典：土屋恵一郎『正義論/自由論 寛容の時代へ』
岩波書店・2002年（ジョンソン政権下の大統領令より）

2. 理系学部における女子学生や女性研究者の割合が低いことについて、性別に左右されることなく「個人の尊重」を実現するために、「平等」を保障する方法として、最も選んでいるのはどれだと考えるか。以下の選択肢A～Eから1つ選び、理由を答えよ。
A. 女性枠を導入せず、今までどおり性別を問わずに定員を設ける。
I. 女子学生の割合が低い学部において、女子学生の割合が半数程度になるまでの一定期間、女性枠を導入する。
U. 女子学生の割合が低い学部において、期間を定めずに女性枠を導入する。
E. その他A～H以外

選んだ選択肢

理由

3. 「2」の意見をもとにグループで意見を交流しよう。

メモ

4. 今日の授業を踏まえ、本時のテーマに対する自分の考えをまとめよう。

「現代社会」ワークシート③
8月22日(木)実施

2年

※著作権の関係上、省略しています。

出典：朝日新聞（平成23年5月18日）

本時のテーマ

性別による一人としての多様な生き方が認められること。
「個人の尊重」を実現するためには、どのような「平等」の在り方が必要か。

▼ 「フォーマティブ・アクションとは？

社会環境や歴史的差別による現在の格差を改善するため、社会的弱者やマイノリティを優遇する措置。積極的差別是正措置、ポジティブ・アクションとも。
※マイノリティ…社会的少数派のこと。

1. 次の文章における下線部が意味するのは具体的にどのようなことだろうか。

※著作権の関係上、省略しています。

出典：土屋恵一郎『正義論/自由論 寛容の時代へ』
岩波書店・2002年（ジョンソン政権下の大統領令より）

2. 理系学部における女子学生や女性研究者の割合が低いことについて、性別に左右されることなく「個人の尊重」を実現するために、「平等」を保障する方法として、最も選んでいるのはどれだと考えるか。以下の選択肢A～Eから1つ選び、理由を答えよ。
A. 女性枠を導入せず、今までどおり性別を問わずに定員を設ける。
I. 女子学生の割合が低い学部において、女子学生の割合が半数程度になるまでの一定期間、女性枠を導入する。
U. 女子学生の割合が低い学部において、期間を定めずに女性枠を導入する。
E. その他A～H以外

選んだ選択肢

理由 「性別に左右されることなく」には2つの意味があると考えた。1つは「個人を尊重する」であり、この場合は枠を設けずとも男女差別が生じないので枠は必要ない。2つ目は「女子は理系に向かない」とする思い込みの排除、でありこの場合は枠を設けて女子が理系に入りやすくなり、男女の割合の差は生まれなくなるので枠が必要である。よって2つの意味を合わせてIとする。

3. 「2」の意見をもとにグループで意見を交流しよう。

メモ

当以前に平等性が確保されるまで枠をつくるほうが良いと思う。枠がなく、たまたま女子が入ったのか？
根本的な教育 勉強 精神面サポート
国立の女子大を設置
調査(上の世代へ)

4. 今日の授業を踏まえ、本時のテーマに対する自分の考えをまとめよう。

今回のテーマは難しかった。自分の意見がうまく伝わり、気持ちが良かった。
個人の尊重を実現するためには、まず男女差とそれによる差別が発生しているのかを知る必要がある。女性の理系志望者が少ないのは上の世代から思い込みで構えられている(=差別の思い込み)であり、それに対して女性枠を設けるというのは男女の差別を、以前とは異なる形でうけわたしていることである。不平等、という結果に目を向けるのではなく、不平等に「なった原因」に目を向け、改善することが大切である。

資料プリント①

【資料1】「PISA（国際学習到達度調査）の数学的リテラシーを問う問題における男女の平均点の差」

※著作権の関係上、
省略しています。

日本経済新聞（2015年4月11日）より
※OECDによるPISA（国際学習到達度調査/日本では高校1年生を対象に実施）の数学的リテラシーを調査する問題の点数について、国毎に「男子の平均点－女子の平均点」を算出したもの。

【資料2】「ジェンダー・ギャップ指数2018（全149カ国比較）」

0から1の数値で表され、0が完全不平等、1が完全平等を意味する。数値が1に近いほど男女の平等が実現されていることを示す。

| 順位 | 国名 | 値 |
|-----|----------|-------|
| 1 | アイスランド | 0.858 |
| 2 | ノルウェー | 0.835 |
| 3 | スウェーデン | 0.822 |
| 4 | フィンランド | 0.821 |
| 5 | ニカラグア | 0.809 |
| 6 | ルワンダ | 0.804 |
| 7 | ニュージーランド | 0.801 |
| 8 | フィリピン | 0.799 |
| 9 | アイルランド | 0.796 |
| 10 | ナミビア | 0.789 |
| 12 | フランス | 0.779 |
| 14 | ドイツ | 0.776 |
| 15 | 英国 | 0.774 |
| 16 | カナダ | 0.771 |
| 51 | アメリカ | 0.720 |
| 70 | イタリア | 0.706 |
| 75 | ロシア | 0.701 |
| 103 | 中国 | 0.673 |
| 110 | 日本 | 0.662 |
| 115 | 韓国 | 0.657 |

内閣府男女共同参画局ホームページより
※ジェンダー・ギャップ指数：世界経済フォーラムが毎年公表する男女格差を示す指数。

資料プリント②

【資料3】



※著作権の関係上,省略しています。

日本経済新聞 (平成 27 年 4 月 11 日)

第4時

(1) 目標

身近な社会の在り方について考察することを通し、公共的な空間の実現には、人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務といった基本的原理が不可欠であることを理解するとともに、よりよい公共的な空間を作り上げるためには何が必要かについて考察する。

(2) 評価規準

- ・身近な社会が公共的な空間と言えるかどうかについて、多角的・多面的に考察する。【思考・判断・表現】
- ・公共的な空間を実現するための条件について主体的に考察・構想しようとする。【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 指導構想

導入で「よりよい公共的な空間を実現するための条件とは何か」という単元の学習課題と、この解決に向けてこれまで学習してきたことを確認する。

展開では、単元の学習課題に対するまとめを記入する。その際、よりよい公共的な空間を実現するための条件、それらの条件を身近にある公共的な空間が満たしているかどうかの検討、また、取り上げた身近にある公共的な空間をよりよいものにするための方策、という3点について触れるようにする。記入した内容についてルーブリックをもとに自己評価を行い、その後グループ内で発表し、相互に評価を行う。他者の発表や他者による評価を受けて、自分の記入した内容を修正し、再度自己評価を行う。その際、他者からの評価を踏まえて、自分自身の学習内容の理解度について客観的に把握することができるようにしたい。

終末では、単元の学習を通しての振り返りを行う。

(4) 展開

| 段階 | 学習活動・内容 | 指導上の留意点 (◇評価) | 留意点 (資料等) |
|-----------|---|--|--------------------------------------|
| 導入 5分 | 1. 前時までの学習を振り返り、単元の学習課題を確認する。 | ・第1時から第3時までの学習を想起させる。 | |
| 展開 35分 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">学習課題 よりよい公共的な空間を実現するための条件とは何か。</div> 2. 単元のまとめとして、自分にとって身近な社会(家族、学級、所属する部等)を取り上げ、それが公共的な空間と言えるかどうかについてワークシートに記入する。 3. 記入した内容についてルブリックに基づいて自己評価を行う。 4. 記入した内容を4人グループで交流し、他者による評価を受ける。 5. グループでの交流や他者による評価を受け、自分のまとめを修正し、再度自己評価を行う。 6. 記入した内容を全体で交流する。 | ・単元のまとめとして、 ① よりよい公共的な空間を実現するための条件 ② 身近にある公共的な空間がそれらの条件を満たしているかどうか ③ 身近にある公共的な空間をよりよいものにするための方策 という3点について記入させる。 | ・ワークシート ・ルブリック ・ワークシート |
| 終末 10分 | 7. グループ及び全体の交流を踏まえ、単元の学習についての振り返りをまとめる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>〈まとめの記述例〉</p> <p>よりよい公共的な空間の実現には、人間の尊厳と平等や個人の尊重の原理を基礎として、その在り方を決定する際には民主主義や法の支配に基づいた合意形成が必要である。</p> <p>私にとって身近な公共的な空間である〇〇部を例にとると、部員は互いを尊重する気持ちはありながらも、合意形成の際に全員の意見を確認したり整理したりすることが十分になされず、民主主義的な決定がなされているとは言えない。今後は部長や副部長の考えのみならず、他の部員の意見にも耳を傾けるための仕組み作りが必要である。</p> </div> | ◇公共的な空間を実現するための条件について、協働の利益と社会の安定性の確保を図ることの重要性や、人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と平等といった基本的原理の理解を踏まえてまとめている。 【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】 | ・ワークシート |

(5) ワークシート、生徒のワークシート記述例及び資料プリント

「現代社会」ワークシート④
8月23日(金)実施

2年 組 番 氏名

単元のテーマ

1. 8月20日～22日までの授業を踏まえ、単元のテーマに対する自分の考えをまとめよう。

①【条件の確認】よりよい公共的な空間を実現するための条件は、

②①で挙げた条件を、身近にある公共的な空間がどの程度満たしているかの検討)私の身近にある公共的な空間として、「X」を取り上げたい。

③【Xをよりよいものとするための方策の提案】「X」をよりよい公共的な空間にするために、

2. 「1」についての、別紙のルーブリックをもとにグループ内発表の前で自己評価をしよう。

| | |
|--------------|-----------------------|
| 自己評価(発表前) | (1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5) |
| 自己評価(発表後) | (1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5) |
| 自己評価(発表後)の理由 | |

3. 単元全体の学習を通しての振り返り(自分自身の学びや感想)を書こう。

「現代社会」ワークシート④
8月23日(金)実施

2年 [] 氏名 []

単元のテーマ よりよい公共的な空間を実現するための条件とは何か

1. 8月20日～22日までの授業を踏まえ、単元のテーマに対する自分の考えをまとめよう。

①【条件の確認】よりよい公共的な空間を実現するための条件は、「民主主義」「平等」が必要である。10日の「民主主義」とは構成員の「合意」で物事を決めることを言い、代表制としては構成員の投票によって代表と選出する権利を信託する間接民主制と構成員自身が権利を持つ直接民主制がある。間接民主制の場合、代表者は構成員の求めた事柄を必要に応じて直接民主制の場合、構成員本人が確かな情報量と判断力を持つ必要がある。

20日の「平等」とは先天的な年齢、障がいの有無などによらずに権利が保証されていること、平等と能力差がある場合はその差を埋めるために適切な対応を講ずるものとする。

②①で挙げた条件を、身近にある公共的な空間がどの程度満たしているかの検討)私の身近にある公共的な空間として、「X 家庭 []」を取り上げたい。

まず、「民主主義」については「現在 []」で、祖母、母、私(三人暮らし)の状況で、投票によって決められる「年功序列」的な考えから、祖母の絶対的決定権がある。物事を決める時は祖母の意見が全てが決まる。この状況は母の発言の権利が保証されている。次に「平等」については、祖母は料理好きで料理を得意とするが、高齢のためその他の家事については、使っている母親が他の家事を全部して、私は何もしないため「平等」は成り立っていない。

「能差(例えば、高齢者)に合わせて各々の役割を分担し、私の理想が非常(?)に実現される。

③【Xをよりよいものとするための方策の提案】「X 家庭 []」をよりよい公共的な空間にするために、物事を決めることは多く話し合い、直接民主制を用いるべきである。これにより、各人の発言権が保障される。また、3人制の人数なので「合意」形成しやすいはず。

「平等」については、働きたら家事以外の家事を分担しているが負担が大きいため「私」が洗い物とアイロンを3人で分担し、家事は「平等」にしたい。

2. 「1」についての、別紙のルーブリックをもとにグループ内発表の前で自己評価をしよう。

| | |
|--------------|--|
| 自己評価(発表前) | (1 ・ 2 ・ ③ ・ 4 ・ 5) |
| 自己評価(発表後) | (1 ・ 2 ・ ③ ・ 4 ・ 5) |
| 自己評価(発表後)の理由 | 言っていることは同じなので評価は同じ。相手に伝わりやすいように表現と変えた。 |

3. 単元全体の学習を通しての振り返り(自分自身の学びや感想)を書こう。

私は今まで「公共的な空間」と言われてきたことがなかった。公共的な空間とは、意見の対立が起きないことではない。むしろ、公共的な空間を通じて、意見の対立が起きることがある。今後意見の対立が起きたときに人間性から対峙したい」と割り切ることができ、「民主主義」が達成されているか「平等」が成り立っているかを確認したい。そして確認したことをもとにその状況に合った「民主主義的公平」を考えた。

ルーブリック

| 評価規準 評価基準 | 「よりよい公共的な空間を実現するための条件は何か」について、これまでの学習を踏まえて自分の考えをまとめている |
|-----------------|---|
| 5 (すばらしい) | <ul style="list-style-type: none"> よりよい公共的な空間を実現するための条件について、各条件の具体的な内容や意味を踏まえてまとめられている。 身近にある公共的な空間について取り上げ、どの程度各条件を満たしているかについて、明確な根拠を挙げて具体的に分析・記述している。 身近にある公共的な空間をよりよいものとするための方策について具体的に記述しており、主張に非常に説得力がある。 |
| 4 (良い) | <ul style="list-style-type: none"> よりよい公共的な空間を実現するための条件について、各条件の具体的な内容や意味を踏まえてまとめられている。 身近にある公共的な空間について取り上げ、どの程度各条件を満たしているかについて具体的に分析・記述している。 身近にある公共的な空間をよりよいものとするための方策について具体的に記述している。 |
| 3 (合格) | <ul style="list-style-type: none"> よりよい公共的な空間を実現するための条件について、各条件の具体的な内容や意味を踏まえてまとめられている。 身近にある公共的な空間について取り上げて分析・記述している。 身近にある公共的な空間をよりよいものとするための方策について記述している。 |
| 2 (もう一歩) | <ul style="list-style-type: none"> よりよい公共的な空間を実現するための条件について、各条件の具体的な内容や意味を踏まえてまとめられている。 身近にある公共的な空間について取り上げて分析・記述しているが、その記述にやや具体性が欠ける。 |
| 1 (かなり改善が必要) | よりよい公共的な空間を実現するための条件について、十分に記述されていない。 |

※ルーブリックは授業者作成（参考：岩手県立総合教育センター『平成 28 年度版 資質・能力の「三つの柱」を軸的に育む授業づくりガイドブック 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業改善 中学校社会科 高等学校地理歴史科・公民科編』（2017）、岩手県立総合教育センター教科領域教育担当、p.33-34）

◆グループのメンバーの発表を聞き、ルーブリックをもとに評価をしよう。

| | | | | |
|----------------|-------|---------|---|---|
| 1 | 発表者氏名 | | | |
| 評価 (1つOで囲む) | | メモ・評価理由 | | |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

| | | | | |
|----------------|-------|---------|---|---|
| 2 | 発表者氏名 | | | |
| 評価 (1つOで囲む) | | メモ・評価理由 | | |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

| | | | | |
|----------------|-------|---------|---|---|
| 3 | 発表者氏名 | | | |
| 評価 (1つOで囲む) | | メモ・評価理由 | | |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

| | | | | |
|----------------|-------|---------|---|---|
| 4 | 発表者氏名 | | | |
| 評価 (1つOで囲む) | | メモ・評価理由 | | |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

【補助資料2】教員用事前アンケートについて

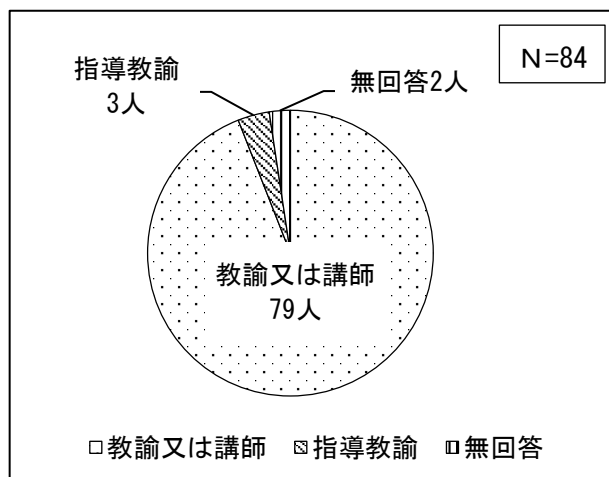
I アンケート調査の概要

- 1 調査名 地歴・公民科における授業づくりに関する調査
- 2 目的 県内の地歴・公民科の授業に関する現状や授業を行う上での課題を明らかにし、本研究における単元及び授業の構想に生かす。
- 3 期日 令和元年6月19日（水）
- 4 対象 県内で地歴・公民科の授業を担当する教員84名
- 5 方法 質問紙法

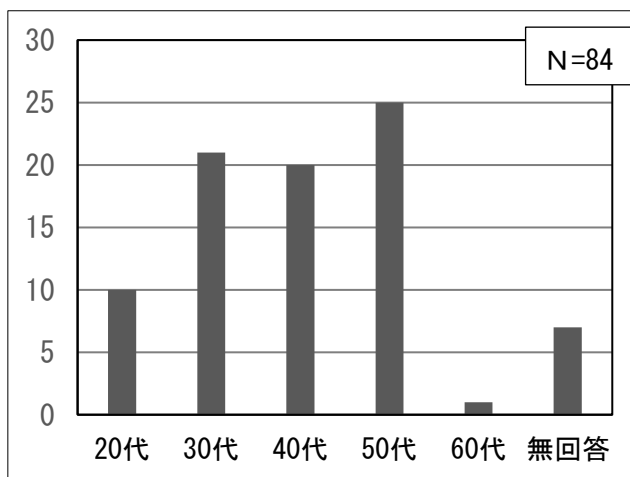
II 調査結果

1 調査対象の教員の属性

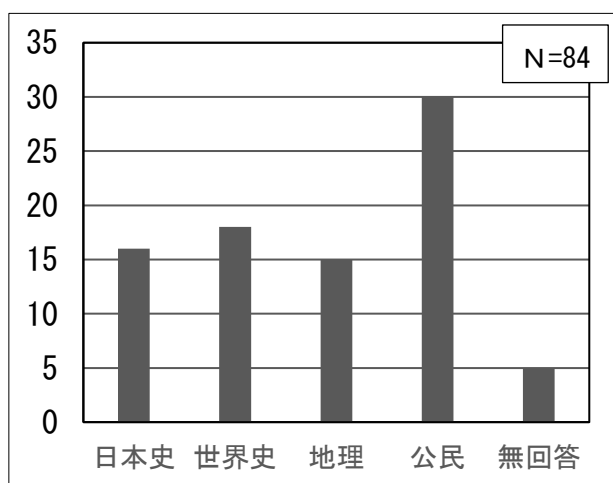
調査対象の教員84名の職名、年代、所属部会、担当科目については、それぞれ【図3】～【図6】に示すとおりである。



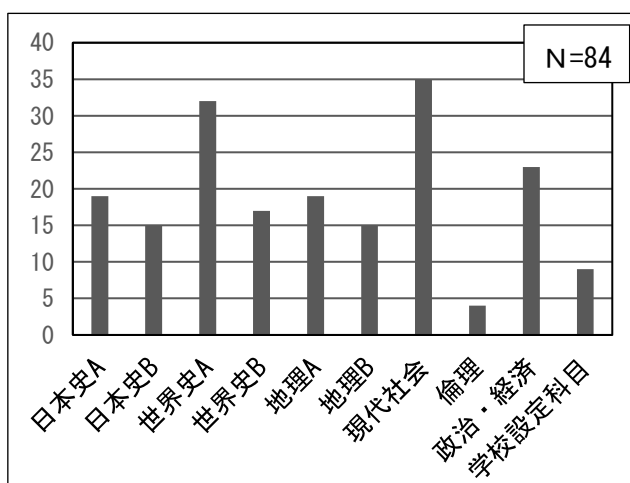
【図3】教員の職名



【図4】教員の年代



【図5】教員の所属部会

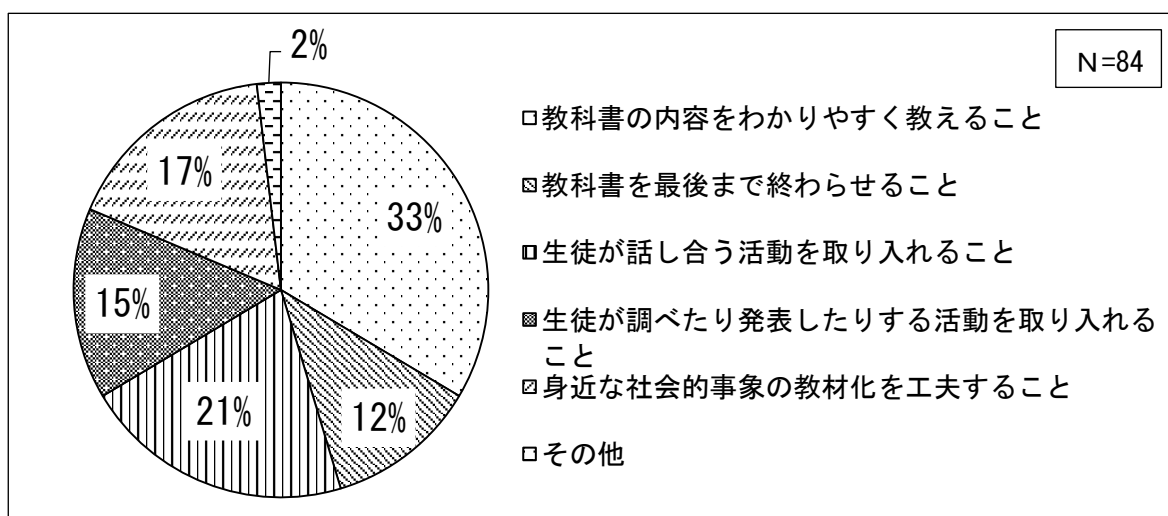


【図6】教員の担当科目（複数回答可）

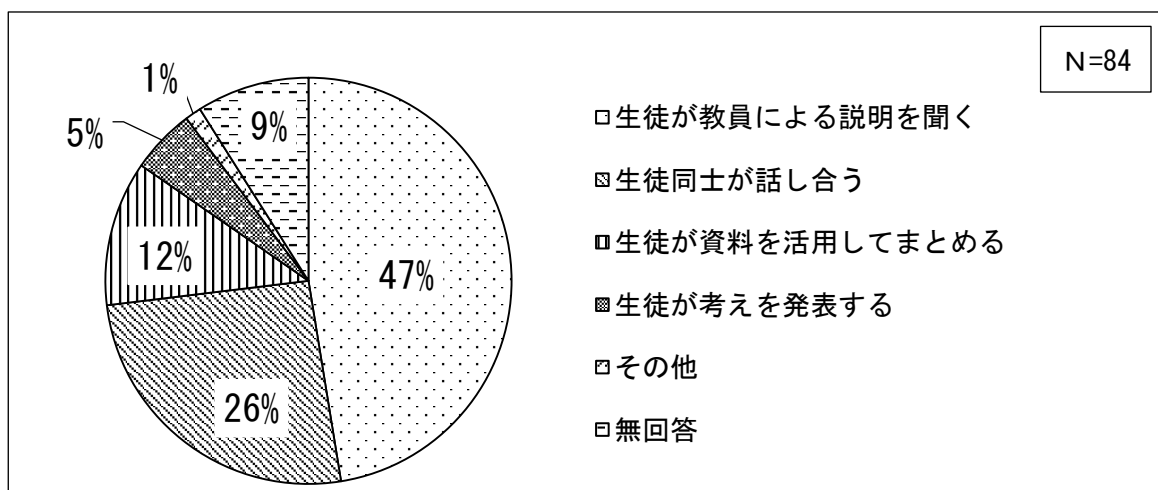
2 地歴・公民科の授業づくりについての回答の結果

地歴・公民科の授業づくりに関わって、以下の項目についての回答を求めた結果、(1)～(10)のようになった。

(1) 授業の仕方について、特に重視していること



(2) 単元を通して最も時間をかけているもの



(3) (2)で選択したものに最も多く時間をかけている理由

「生徒が教員による説明を聞く」を選んだ理由

- ・知識の理解を基盤として表現活動があると考えられるため。
- ・話し合いや資料を活用する前に基盤となる基礎的事項を理解してほしいから。
- ・考えるために知識が必要となるから。
- ・説明が伝達に最も優れている。その後、思索と討論があると更によい。
- ・まずは知識を入れ、その知識を活用し、資料活用となっているのが現状。生徒が自ら知識を得ることは難しい。
- ・関心を高め、知識をもった上で思考を深めてほしいと思うから。
- ・時間的な制約のため。
- ・教科書の内容を最後まで終わらせるため。
- ・内容を精選し、わかりやすく授業するため。

- ・効率がよい。
- ・受験指導のため。
- ・センター試験対策でどうしても説明が多くなりがちになる。
- ・知識の習得には一定の説明を要するため。
- ・簡単な質問であれば生徒同士の話し合いで良いが、核心的な部分は生徒任せにせずに、教員主導で教えたい。
- ・世界史は初めて接する用語が多く、どうしても教員が説明をしないと始まらない。
- ・生徒に考えを發表させたいが、あまりにも知識不足なので仕方なく。
- ・基礎的・基本的事項が十分身に付いていない生徒が多い実態があるため。
- ・基礎基本事項の定着のため。
- ・基礎的・基本的知識を身に付けるには、教員の説明力で理解させることが大切。その上で、資料活用や、発表等の学習活動を取り入れている。
- ・資料を読み取るための資料の準備、話し合うための教材化の工夫をどのようにすればよいかわからないので、結果的に説明を聞く時間が長くなっている。

「生徒同士が話し合う」を選んだ理由

- ・生徒同士で話した方が理解が深まる。
- ・生徒の学力に差があり、個人の作業では進まないの、生徒がシェアする時間を設定するようにしている。
- ・授業のテーマについて生徒同士の考えを話し合うことで、意見交換や新しい発見が生まれるため。
- ・言語活動を重視しているため。
- ・教員が理解するのではなく、生徒が理解すればよいから。
- ・主体的に学ばせ、理解力を深めるため。
- ・理想は授業の中で生徒が一番動いて疲れることだと思っています。
- ・生徒にしっかり思考力・判断力をつけてもらうため。
- ・社会人として必要な力を授業の中でも身に付けさせたいから。

「生徒が資料を活用してまとめる」を選んだ理由

- ・入試への対応のため。
- ・自ら学び取ったものが知識として最も活用できるため。
- ・資料の基本的な見方やどのような情報を得ることができるかなどを理解した上でこそ、資料の情報をもとに自分の考えをまとめるという作業に入ることができると思うため。
- ・資料の読解・解釈やレポート作成などにあたり、十分な時間を確保する必要があるため。
- ・(飽きさせないための) 作業があると、生徒は取り組むため。

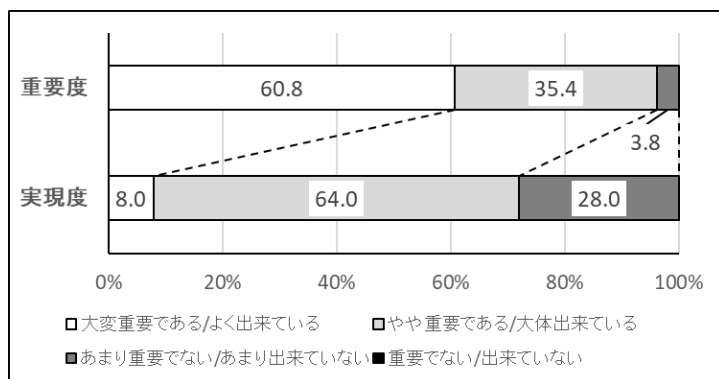
「生徒が考えを發表する」を選んだ理由

- ・ただ聞くだけではなく、自分で考え、積極的に参加してほしいから。
- ・自分自身の学びがどの程度理解されたものになっているかについて、他者との話し合い等を通して確認することができるから。
- ・多面的・多角的な見方や考え方を培うため。
- ・社会的事象を正しく理解することが、自分の考えをもつ前提となるから。

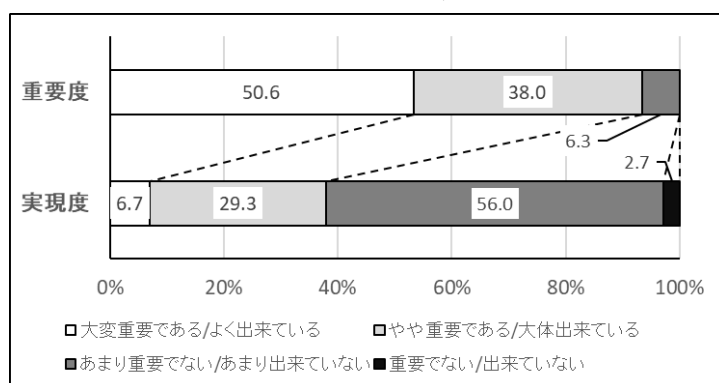
(4) 授業の際に大切にしていることについて、次のア～カに関して、どのくらい重要だと思うか

【重要度】、及びどのくらい実現できていると思うか【実現度】

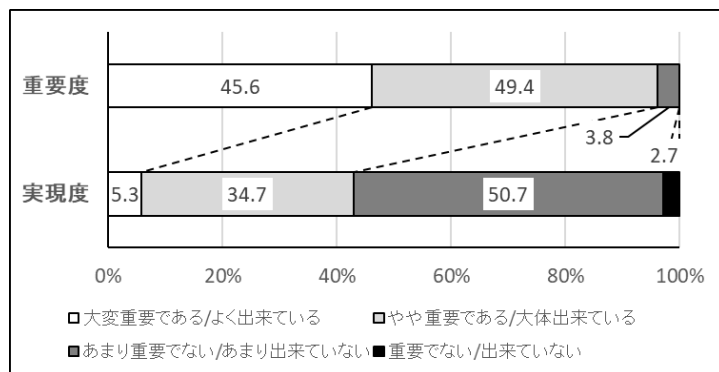
ア 基礎的・基本的な用語の意味等の知識の習得 (N=84)



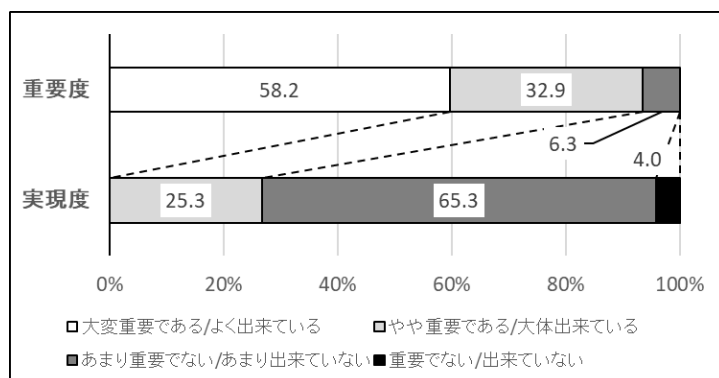
イ 表面的知識に留まらない概念や理論、原理等の知識の習得 (N=84)



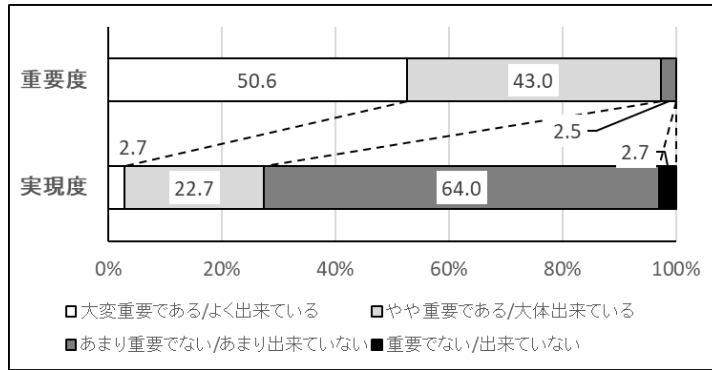
ウ 資料から情報を調べてまとめる技能の習得 (N=84)



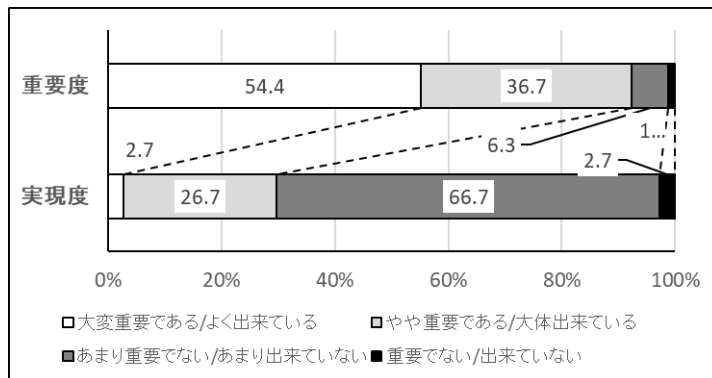
エ 多面的・多角的に考察したり議論したりすること (N=84)



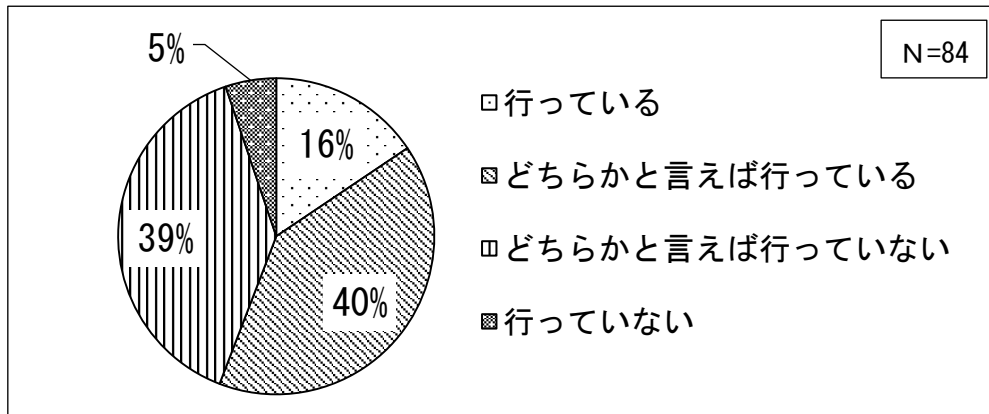
オ 諸課題を主体的に解決しようとする態度 (N=84)



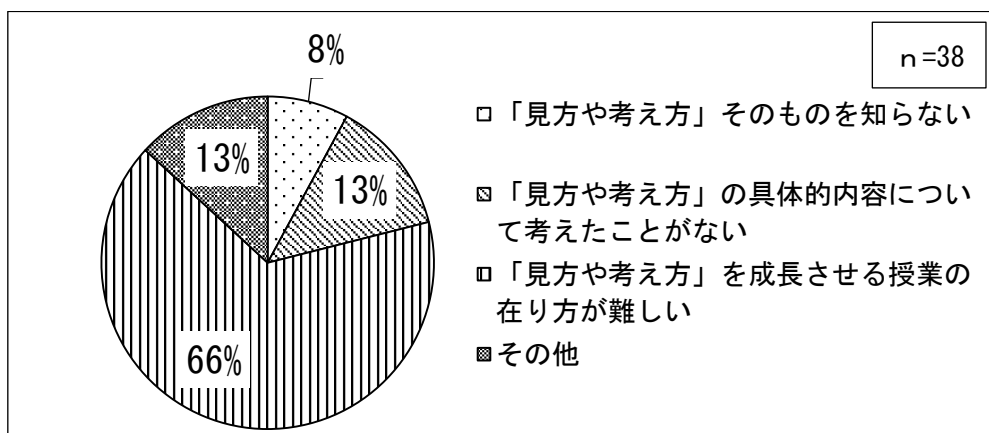
カ 主体的に社会に参画する意識を高めること (N=84)



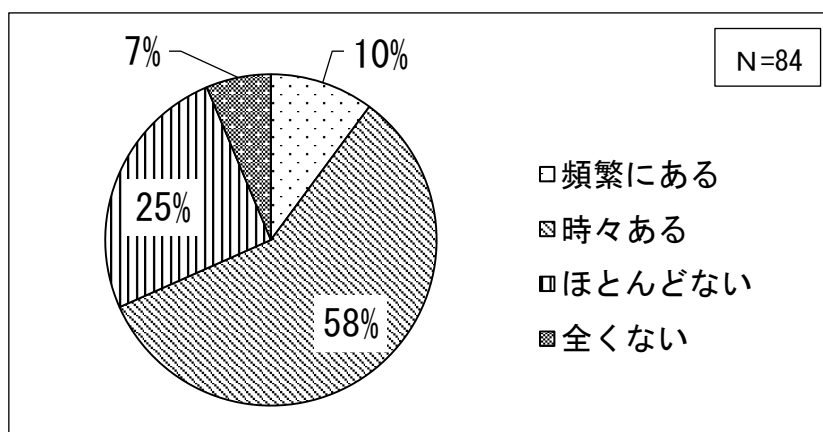
(5) 社会的な「見方や考え方」を成長させることを意識した授業を行っているか



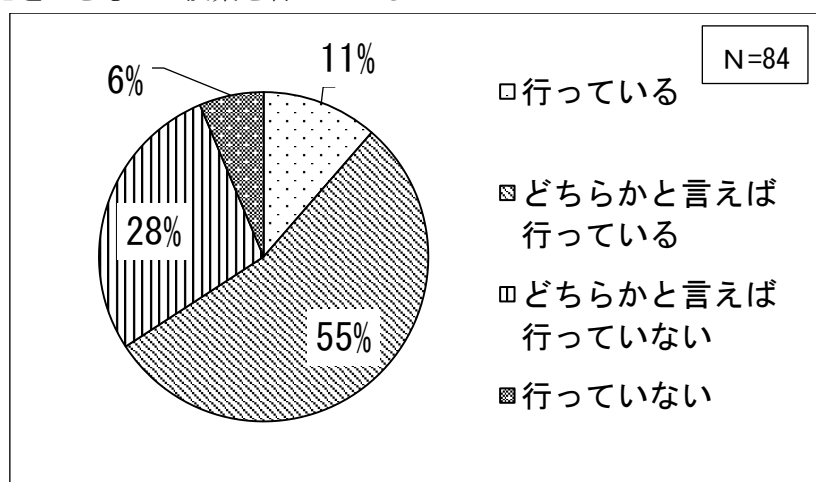
(6) (5)で「行っていない」又は「どちらかと言えば行っていない」と回答した方について、その理由



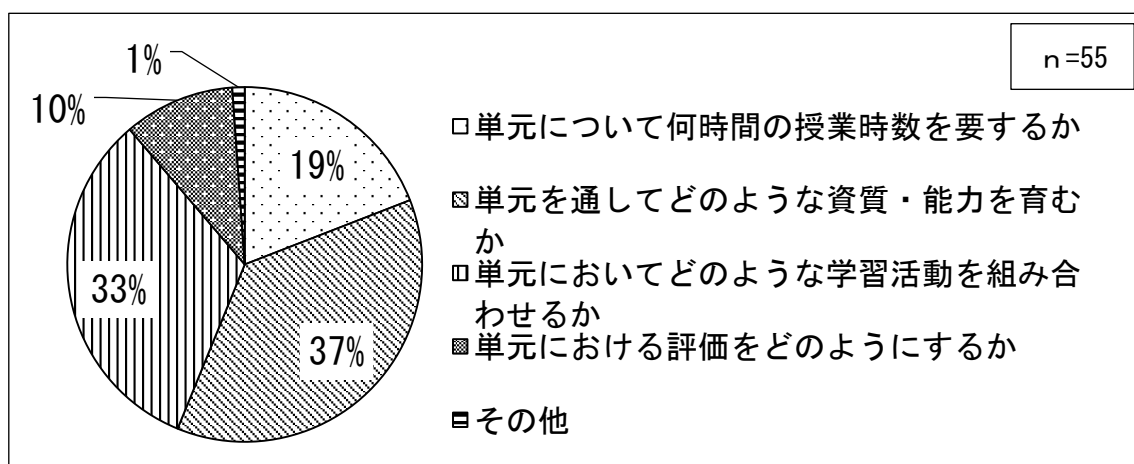
(7) 担当科目における「見方や考え方」について、これまで研修を受けたり教員間で話題にしたりしたことがあるか



(8) 単元の見通しをもって授業を行っているか



(9) (8)で「行っている」又は「どちらかと言えば行っている」と回答した方について、「単元の見通し」をどのようにとらえているか



(10) 新学習指導要領及び新科目の実施に際して必要な情報

- ・具体的な授業デザイン。
- ・新科目となっている「〇〇総合」「〇〇探究」「公共」の授業モデル。
- ・どのような授業展開が可能か。
- ・具体的な取り組みの例。
- ・「公共」の実践イメージ等。

- ・教科書がどのようなものか知りたい。
- ・新科目の教科書のサンプルが早くほしい。また、具体的な授業の進め方のガイドラインがほしい。
- ・過日伝達講習を受講し、大幅な変更であることを認識したばかり。教科書を見てみたい。
- ・どのような教科書になるのか。どのような狙いで教科書を作っているのか知りたい。
- ・「歴史総合」や「日本史探究」がどのような教科書で、どのように授業を行っていけばいいのかを知りたい。
- ・「〇〇総合」の実際について。
- ・新科目に対しての具体的な内容と対応について。
- ・「公共」や「歴史総合」「〇〇探究」等の新科目の内容。
- ・①「公共」の教科書内容、②受験での扱い、③他県の対応。
- ・「歴史総合」、「地理総合」はどのような受験問題となるのか。
- ・大学入学共通テストとどのように結びつけていくか。
- ・各科目を何年次で履修させるか。
- ・「現代社会」でも主体的・対話的で深い学びを意識するようになってきているが、「公共」とどのような違いがあるのか不明である。「現代社会」に近い感覚でよいのか考えている。
- ・新しい科目を教えるに際して、勉強しておくべきこと。
- ・巡検の進め方（人数や場所）。

Ⅲ 質問紙「地歴・公民科における授業づくりに関する調査」

★マークのしかた



地歴・公民科における授業づくりに関する調査

地歴・公民科の授業づくりに関する以下の項目について、あなたの考えをお聞かせください。管理職や指導主事の先生方は、授業をご担当されていた当時についてお答えください。

選択式の回答は、該当箇所のマーク○を塗りつぶしてご回答ください。

○: 空白マーク ●: 正しいぬりつぶし /: 不十分なぬりつぶし

記述式の回答は、回答欄からはみ出さないようにご記入ください。また、「その他」の選択肢を選んだ場合は（ ）内にその具体的な内容をお書きください。

(1) ご自身の職名を1つお選びください。

- 講師 教諭 指導教諭 指導主事又は主任指導主事 副校長 校長

(2) 今年度4月1日時点での年齢に該当するものを1つお選びください。

- 20代 30代 40代 50代 60代

(3) 所属している部会を1つお選びください。

- 日本史 世界史 地理 公民

(4) 今年度担当している科目を全てお選びください。(複数回答可)

- 日本史A 日本史B 世界史A 世界史B 地理A 地理B
 現代社会 倫理 政治・経済 学校設定科目 担当科目なし

(5) 授業の仕方について、特に重視していることは何ですか。最も当てはまるものをお選びください。(複数回答可)

- 教科書の内容をわかりやすく教えること 教科書を最後まで終わらせること
 生徒が話し合う活動を取り入れること 生徒が調べたり発表したりする活動を取り入れること
 身近な社会的事象の教材化を工夫すること その他

(6) 【(5)で「社会的事象の教材化の工夫」又は「その他」を選択した方のみ】 どのような工夫をしているか、又はどのようなことを重視しているか具体的にお答えください。

(7) 過去5年間の本県の高校生を対象とした調査によると、地歴・公民科の授業において「資料を活用しながら、まとめたり発表したりする学習活動」を取り入れている割合が年々増加しています。このことに関わり、ご自身の授業において、単元を通して最も多く時間をかけているものを次から1つお選びください。(1つにマーク)

- 生徒が教員による説明を聞く 生徒が資料を活用してまとめる
 生徒同士が話し合う 生徒が考えを発表する その他

(8) (7)で選択したものに最も多く時間をかけている理由を具体的にお答えください。

★マークのしかた



- (9) 授業の際に大切にしていることについて、次の1～6に関して「(A)どのくらい重要だと思うか【重要度】」と、授業において「(B)どのくらい実現できていると思うか【実現度】」をお答えください。(A)と(B)両方の該当する箇所を1つずつマーク)

| | (A)重要度 | | | | (B)実現度 | | | |
|------------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| | 大変重要である | やや重要である | あまり重要でない | 重要でない | よく出来ている | 大体出ている | あまり出ていない | 出ていない |
| 1 基礎的・基本的な用語の意味等の知識の習得 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 2 表面的知識に留まらない概念や理論、原理等の知識の習得 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 3 資料から情報を調べてまとめる技能の習得 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 4 多面的・多角的に考察したり議論したりすること | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 5 諸課題を主体的に解決しようとする態度 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 6 主体的に社会に参画する意識を高めること | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

- (10) 現行の学習指導要領では社会的な「見方や考え方」を意識した授業づくりの重要性が示されていますが、現在、担当科目において生徒の社会的な「見方や考え方」を成長させることを意識した授業を行っていますか。最も当てはまるものを1つお選びください。(1つにマーク)

行っている どちらかと言えば行っている どちらかと言えば行っていない 行っていない

- (11) [(10)で「行っている」又は「やや行っている」と回答した方のみ] 担当科目における「見方や考え方」をどのようなものにとらえ、授業でそれらを成長させるためにどのような手立てをとっているか、具体的にお答えください。

- (12) [(10)で「行っていない」又は「あまり行っていない」と回答した方のみ] その理由を次から1つお選びください。(1つにマーク)

「見方や考え方」そのものを知らない 「見方や考え方」の具体的な内容について考えたことがない

「見方や考え方」を成長させる授業の在り方が難しい その他

- (13) 担当科目における「見方や考え方」について、これまで研修を受けたり教員間で話題にしたりしたことがありますか。最も当てはまるものを1つお選びください。(1つにマーク)

頻繁にある 時々ある ほとんどない 全くない

- (14) 新学習指導要領では単元を見通した授業づくりの重要性が示されましたが、「単元など内容や時間のまとめ」を意識し、単元の見通しをもって授業を行っていますか。最も当てはまるものを1つお選びください。(1つにマーク)

行っている どちらかと言えば行っている どちらかと言えば行っていない 行っていない

- (15) [(14)で「行っている」又は「やや行っている」と回答した方のみ] 「単元の見通し」を具体的にどのようにとらえているかについて、最も当てはまるものをお選びください。(複数回答可)

単元について何時間の授業時数を要するか 単元を通してどのような資質・能力を育むか

単元においてどのような学習活動を組み合わせるか 単元における評価をどのようにするか

その他

- (16) 新学習指導要領及び新科目の実施に際して、現在必要としているのはどのような情報ですか。ご自由にお書き下さい。

ご協力ありがとうございました。

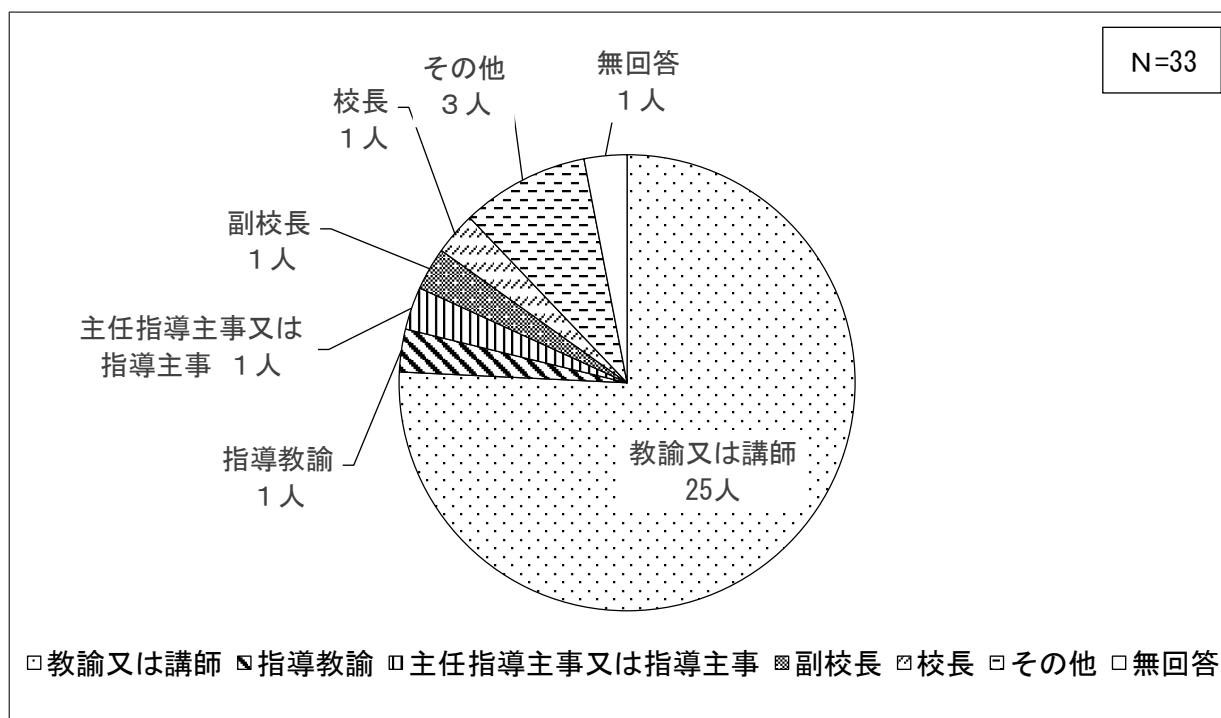
【補助資料3】公開した授業を参観した教員を対象としたアンケートについて

I アンケート調査の概要

| | | |
|---|-----|---|
| 1 | 調査名 | 本時の授業についての教員用アンケート |
| 2 | 目的 | 本研究における授業実践の一部（単元の第3時）についての意見を集約し，検証に生かす。 |
| 3 | 期日 | 令和元年8月22日（木） |
| 4 | 対象 | 「長期研修生」による授業実践の公開への参加者33名 |
| 5 | 方法 | 質問紙法 |
| 6 | その他 | 本調査は，参考資料とする。 |

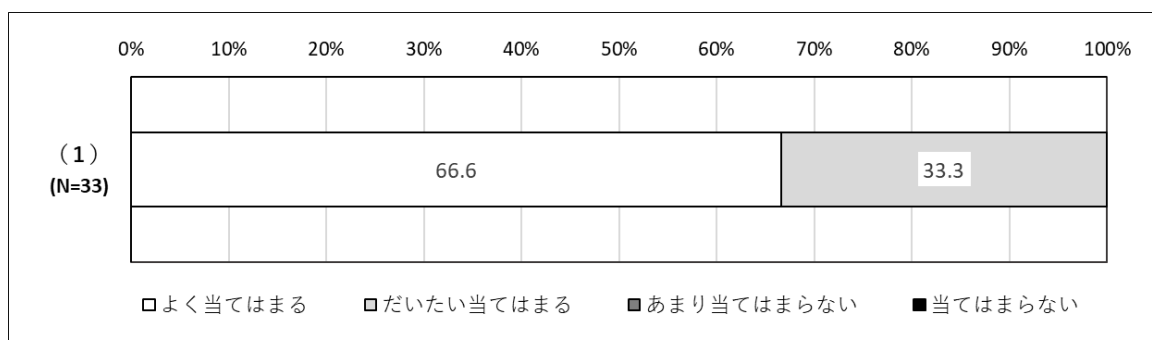
II 調査結果

1 参加者の職名別の割合

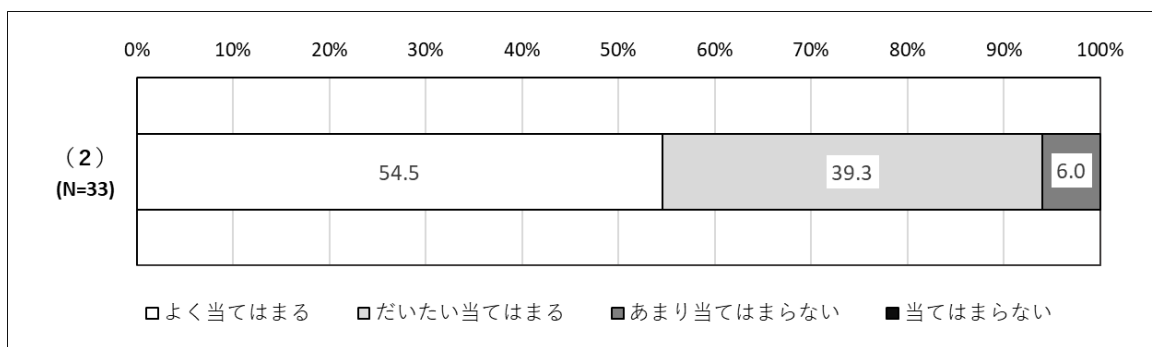


2 以下の各項目について，どれくらいあてはまると思うかについての回答の結果

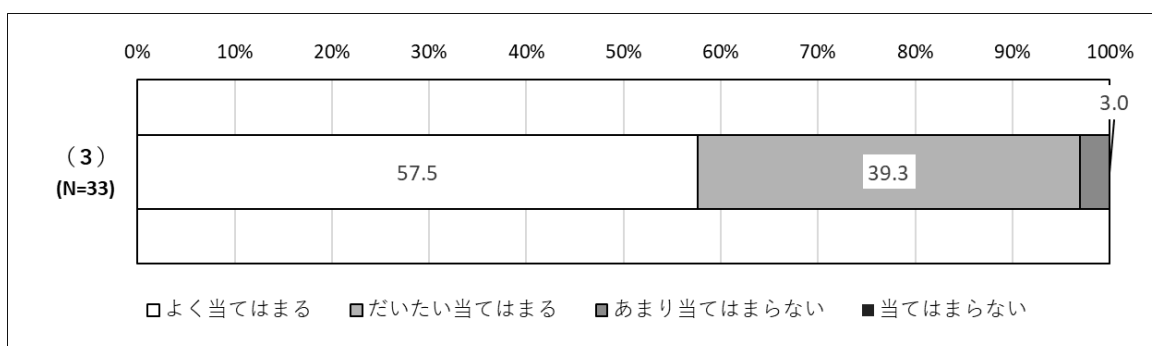
- (1) 生徒の興味・関心を高め，主体的に取り組む姿勢を引き出すために，社会的事象（九州大の入試における女子枠の設定）が適切に教材化されていた



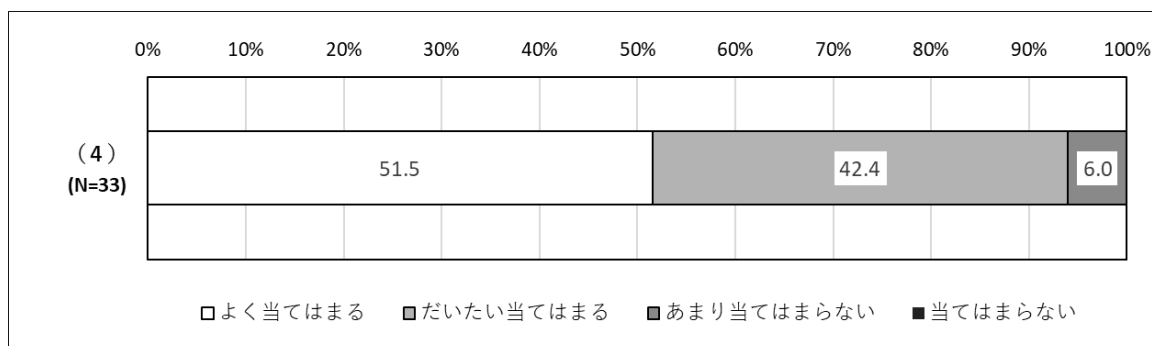
- (2) 本時のねらいを達成するために適切な学習課題（「個人の尊重」を実現するためにはどのような「平等」の在り方が必要か）が設定されていた



- (3) 学習課題の解決に向けて設定した対話的な活動（性別に左右されることなく「個人の尊重」を実現するために、「平等」を保障する方法として適しているものを選択肢ア～エから選び、個人・グループで考察する）が適切であった



- (4) 「人間や社会の在り方についての見方・考え方」を働かせ、深い学びを実現するために、適切な資料（資料プリント①，資料プリント②及びジョンソン政権下の大統領令の抜粋）が提示されていた



- 3 本時の授業において、生徒の「人間と社会の在り方についての見方・考え方」が働いていたと思われる場面についての回答（自由記述）

- ・女性枠の適否を聞いた first impression, 資料1と資料2を関連付けて考える場面, 選択肢ア～エそれぞれを支持する理由を考える場面, 本時のテーマに対するまとめを書く場面。
- ・展開の場面で理系の女性研究者が少ない理由について説明した際, 数名の女子生徒がうなずいたり表情が変わったりしていました。
- ・資料1と資料2の関連付けが, 生徒にとってはなるほどと思う新たな気づきの場面になったと思う。グループや全体の意見の中で, 「エ その他」として多様な案が出てきたことで,

他の生徒にとって多様な意見を知ることができたと思う。

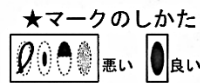
- ・生徒が九州大の女性枠設置の適否についてだけ考えるのではなく、一般化して広い視点で「平等」や「個人の尊重」について考えるようになっていたこと。
- ・グループワークの討議では活発な意見交流があった。
- ・選択肢アを支持する理由として「女性枠を設定することで女子の受験者のレベルが下がるなどの新たな問題が生じる可能性がある」とした発言は、多面的な思考に基づいており、深い学びだと思いました。
- ・選択肢イと比較してエを述べていた生徒や、最後にウを述べていた生徒の発言には、「慣習」「意識」と「制度」の関係をどう捉えるか、それぞれの考え方が表れていたように思います。
- ・「女性枠等のアフーマティブ・アクションで結果の平等が図られただけでは、真の望ましい社会が実現されたとは言えない。ゴールは男女の差についての意識そのものが変わること」といった趣旨の発言。
- ・話し合いの場面で、生徒が「女性枠云々の話ではなく、もっと根本的な思い込みを変えるための具体的な取り組み（講演会等）が必要である」と述べていた発言。
- ・ア～エの選択肢についての話し合いの場が出た、「『ア 今までどおり』では結局今の問題は解決されない」という発言。感覚的にこう思うのではなく、その結果実際に問題が解決されるのかという観点から考えていると感じました。
- ・「女性の割合という数字の変化のみではなく、男女差についての思い込みが変化するまで措置を続けるべきだ」という趣旨の発言。
- ・理系学部における女子学生や女性研究者の割合が低いことについて、選択肢「エ その他」の意見が多く出ていた場面。「思い込みそのものを変える」ことに着目した点が評価できる。

4 本時の授業についての感想や意見（自由記述）

- ・「見方・考え方」について、教員が精査し、生徒・教員ともその「意義」を理解した上で働かせることができるような授業の提案を引き続き期待します。
- ・発問の連続が思考の連続となり、非常に良い授業だと思います。
- ・提示資料の収集や選定はどのようにしたのか。
- ・「見方・考え方」を働かせた問いと資料の設定に感動しました。とても勉強になりました。本当にありがとうございました。
- ・人間の尊厳と平等、個人の尊重という原理は、公民の授業で学ばないと、ともすると対立・衝突する概念という理解に留まりかねないところを、突っ込んで生徒が深めていくのを後押ししていたと思います。生徒の発言等、もう一歩でもっとよくなるということも多かったので、生徒の学びがどう変わったかということについて今後より研究を深めていってほしいと思います。
- ・単元のテーマ「よりよい公共的な空間」が、授業の内容はもちろん、授業の進め方（例えば個々の生徒の思いや経験を尊重してしっかり皆で共有すること。また、単なる正解を追うのではなく少数の考えを尊重すること。）を通して体現され、学びの場としての「よりよい公共的な空間」になっていたことに感心しました。

- ・ 相当な準備が必要だったと思います。本当にお疲れ様でした。「公共」については不透明な部分が多い中、貴重なモデルを提示して頂きありがとうございました。今後は、この大項目Aがどのように大項目BやCと関連付けられるのか知りたいです。
- ・ 評価の仕方（評価方法や評価問題）のアドバイスを頂きたいと思いました。
- ・ 資料はこれでは不適切ではないか。
- ・ 生徒個々の声にどれだけ反応し、評価に繋ぐかがこのタイプの実践の肝になると感じました。
- ・ 生徒一人一人が自分で情報を読み取り、自分の頭でしっかり考えるという活動があり、自分の担当科目にも取り入れたいと思いました。
- ・ 資料の提示の仕方によって「主体的・対話的で深い学び」になるかどうかが決まってしまうのかもしれないと思いました。
- ・ 新聞記事を適切に読み取る中で「平等の在り方」を考察することができ、生徒も対話を通して深く考える様子が見られた。
- ・ 資料提示や選択肢ア～エの設定によって、生徒が自ら「見方・考え方」を働かせるような工夫がなされており、大変刺激を受けました。抽象的な概念を明らかにするために、文章表現のほか、ツールミンモデルの活用もできるのではないかと感じました。
- ・ 大統領令のところは、図説されていたのでイメージとして理解しやすかったと思います。
- ・ 最後の自分の考えのところは書き出しのフレーズがあったので生徒は書きやすかったと思います。
- ・ 大項目A「公共の扉」を意識した授業について、参観を通して考える良い機会となった。ありがとうございました。生徒の実態に合わせた資料提示と授業展開であったと思うが、構造的差別をいかに解消するかについて考えを深めるにはさらにこれをもとに踏み込む授業が必要であると感じた。扱う事例を一般化させるためにどのような授業をデザインするか、非常に難しい課題と感じる。
- ・ 選択肢の提示や書き出しの提示など、細かいところまで生徒に配慮されており、このような授業を受けることができる生徒は幸せだろうと感じました。大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ 情報交換の際に他の先生の発言でもあったように、生徒へ提示する資料次第で生徒から出てくる答えや考え方が変わってしまうのだなと感じました。今まで以上に、どのような資料を選ぶのか考えなければならぬと思いました。そのような中で、生徒への問いや提示する資料についてもよく練られたものだと思います。私自身もとても楽しかったです。大変勉強になりました。ありがとうございました。本時の授業以外になってしまいますが、考査などの試験も用語集などの持ち込み可も必要なのかもしれないと思いました。
- ・ 資料の選択が難しいと思いました。資料の提示の仕方により「主体的・対話的で深い学び」になるかどうかが決まってしまう部分もあると思いました。
- ・ 「公共」という新たな科目に取り組む上での指針になったのではないかと思います。ありがとうございました。
- ・ 1つのテーマにおける深め方がとても上手いと思いました。
- ・ 導入が非常によかった。新聞記事を適切に読み取る中で、「平等の在り方」を考察することができ、生徒も対話を通して深く考える様子が見られた。大変勉強になりました。

III 質問紙「本時の授業についての教員用アンケート」



本時の授業についての教員用アンケート

研究の検証に役立てるため、お手数をおかけしますが、授業を参観された先生は本アンケートの記入及び提出をお願い致します。

選択式の回答は、該当箇所のマーク○を塗りつぶしてご回答ください。
○: 空白マーク ●: 正しいぬりつぶし /: 不十分なぬりつぶし

記述式の回答は、回答欄からはみ出さないようにご記入ください。

- (1) ご自身の職名を1つお選びください。
○ 教諭又は講師 ○ 指導教諭 ○ 主任指導主事又は指導主事 ○ 副校長 ○ 校長 ○ その他

- (2) 以下の各項目について、どれくらいあてはまると思うかをお答えください。(各項目、1つずつマーク)

| | | 適合度 | | | |
|---|---|---------|-----------|------------|---------|
| | | よく当てはまる | だいたい当てはまる | あまり当てはまらない | 当てはまらない |
| 1 | 生徒の興味・関心を高め、主体的に学習に取り組む姿勢を引き出すために、社会的事象（九州大の入試における女子枠の設定）が適切に教材化されていた | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 2 | 本時のねらいを達成するために適切な学習課題（「個人の尊重」を実現するためにはどのような「平等」の在り方が必要か）が設定されていた | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 3 | 学習課題の解決に向けて設定した対話的な活動（性別に左右されることなく「個人の尊重」を実現するために、「平等」を保障する方法として適しているものを選択肢ア～エから選び、個人・グループで考察する）が適切であった | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 4 | 「人間や社会の在り方についての見方・考え方」を働かせ、深い学びを実現するために、適切な資料（資料プリント①②及びジョンソン政権下の大統領令の抜粋）が提示されていた | ○ | ○ | ○ | ○ |

- (3) 本時の授業において、生徒の「人間と社会の在り方についての見方・考え方」が働いていたと思われる場面があれば、具体的な生徒の発言・発話をご記入ください。

- (4) 本時の授業についてのご感想やご意見をご自由にお書きください。書き切れな場合は裏面にお書き頂きますようお願いいたします。

ご協力ありがとうございました。


【補助資料4】生徒用事前アンケートについて

I アンケート調査の概要

- 1 調査名 社会科及び地歴・公民科の学習に関わる調査
- 2 目的 授業実施前の生徒の社会参画意識について把握し、実践後の分析に生かすこと。
- 3 期日 令和元年7月16日(火)～19日(金)
- 4 対象 授業実践の対象とする所属校2学年理系コース及び理数探究コースの生徒167名
- 5 方法 質問紙法
- 6 その他 結果については別紙報告書に記載のとおり

II 質問紙「社会科及び地歴・公民科の学習に関わる調査」

★マークのしかた



社会科及び地歴・公民科の学習に関わる調査
社会科及び地歴・公民科の学習について、以下の項目に答えてください。

該当箇所のマークを塗りつぶして回答してください。
○: 空白マーク ●: 正しいぬりつぶし /: 不十分なぬりつぶし

(1) 性別 (1つのみマーク)
○ 男子 ○ 女子

(2) 所属するクラス (1つのみマーク)
○ 4組 ○ 5組 ○ 6組 ○ 7組

(3) 出席番号の十の位 (1つのみマーク)
○ 0 ○ 1 ○ 2 ○ 3 ○ 4

(4) 出席番号の一の位 (1つのみマーク)
○ 0 ○ 1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5 ○ 6 ○ 7 ○ 8 ○ 9

(5) 以下の各項目について、中学校の社会科や高校の地歴・公民科の学習を踏まえ、どれくらいそう思うかを答えてください。(各項目、1つずつマーク)

| | | 適合度 | | | |
|----|--|---------|--------------|----------------|----------|
| | | とてもそう思う | どちらかと言うとそう思う | どちらかと言うとそう思わない | 全くそう思わない |
| 1 | 社会の出来事に対する興味・関心がある | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 2 | 人間は他者と協力して社会を作っている存在である | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 3 | 社会をよりよくするため、主体的に社会の問題に関わっていききたい | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 4 | 民主政治を推進するためには、国民が積極的に政治に参加することが必要である | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 5 | 18歳になり、選挙権を得たら選挙の投票に行きたい | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 6 | 社会の問題について自分の考えをもち、文章にまとめたり他者と議論したりすることができる | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 7 | 社会の出来事の意味や意義について様々な視点から考察することができる | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 8 | 「民主主義」について自分の言葉で説明することができる | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 9 | 「基本的人権の尊重」について自分の言葉で説明することができる | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 10 | 「個人の尊重」について自分の言葉で説明することができる | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 11 | 「法の支配」について自分の言葉で説明することができる | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 12 | 「立憲主義」について自分の言葉で説明することができる | ○ | ○ | ○ | ○ |

ご協力ありがとうございました。

1 / 1


【補助資料5】生徒用事後アンケートについて

I アンケート調査の概要

- 1 調査名 「現代社会」の授業に関わる調査
- 2 目的 授業実施後の生徒の社会参画意識について把握し、実践後の分析に生かすこと。
- 3 期日 令和元年8月23日（金）
- 4 対象 授業実践の対象とする所属校2学年理系コース及び理数探究コースの生徒149名
- 5 方法 質問紙法
- 6 その他 結果については別紙報告書に記載のとおり

II 質問紙『現代社会』の授業に関わる調査

★マークのしかた



「現代社会」の授業に関わる調査

「現代社会」の授業を踏まえ、以下の項目に答えてください。

該当箇所のマークを塗りつぶして回答してください。

○: 空白マーク ●: 正しいぬりつぶし /: 不十分なぬりつぶし

(1) 性別（1つのみマーク）
 男子 女子

(2) 所属するクラス（1つのみマーク）
 4組 5組 6組 7組

(3) 出席番号の十の位（1つのみマーク）
 0 1 2 3 4

(4) 出席番号の一の位（1つのみマーク）
 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

(5) 以下の各項目について、8月20日(火)～23日(金)における「現代社会」の授業を踏まえ、どれくらいそう思うかを答えてください。（各項目、1つずつマーク）

| | 適合度 | | | |
|--|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| | とてもそう思う | どちらかと言 うとそう思う | どちらかと言 うとそう思わない | 全くそう思わない |
| 1 社会の出来事に対する興味・関心がある | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 2 人間は他者と協力して社会を作っている存在である | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 3 社会をよりよくするため、主体的に社会の問題に関わって いきたい | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 4 民主政治を推進するためには、国民が積極的に政治に参加 することが必要である | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 5 18歳になり、選挙権を得たら選挙の投票に行きたい | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 6 社会の問題について自分の考えをもち、文章にまとめたり 他者と議論したりすることができる | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 7 社会の出来事の意味や意義について様々な視点から考察す ることができる | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 8 「民主主義」について自分の言葉で説明することができる | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 9 「基本的人権の尊重」について自分の言葉で説明するこ とができる | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 10 「個人の尊重」について自分の言葉で説明することができ る | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 11 「人間の尊厳と平等」について自分の言葉で説明するこ とができる | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 12 「法の支配」について自分の言葉で説明することができる | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 13 「立憲主義」について自分の言葉で説明することができる | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 14 「自由・権利と責任・義務」について自分の言葉で説明す ることができる | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

ご協力ありがとうございました。

1 / 1